

# 消 防 年 報

平成 2 2 年 版



3. 11東日本大震災 被災地へ向かう緊急消防援助隊鹿児島県隊  
(東北自動車道 三本木 PA)H23. 3. 17

いちき串木野市消防本部

(平成 2 3 年刊行)

## はじめに

この年報は、いちき串木野市消防本部の現況及び平成22年度における消防業務に関する諸般の事項を収録し、将来の参考に資するとともに、消防事情を広く一般に紹介し、理解と協力を得るため編集したものであります。

なお、この年報の統計資料は、原則として暦年をもって表し、予算に関する事項については、会計年度で作成し、それ以外のものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日をもって表してあります。

平成23年 8月

いちき串木野市消防本部

# 目 次

## I 総 括

1	いちき串木野市のあらまし	1
2	市域の変遷	2
3	消防の沿革	2
4	歴代消防長	
(1)	旧串木野市消防本部	9
(2)	いちき串木野市消防本部	9
5	歴代消防団長	
(1)	旧串木野市	10
(2)	旧市来町	10
(3)	いちき串木野市	10

## II 総 務

1	消防の組織	11
2	消防本部・消防署・分遣所の事務分掌	12
3	いちき串木野市消防現勢分布図	14
4	消防庁舎・分遣所・詰所（車庫含む。）の状況	
(1)	消防本部（署）・分遣所	15
(2)	消防団	15
5	平成22年度の主な行事	16
6	消防予算	
(1)	平成22・23年度消防予算	17
(2)	市総予算と消防予算	18
(3)	消防予算と人口・世帯数との比較	18
7	人事・教養	
(1)	消防職員の配置状況	19
(2)	消防職員の年齢	19
(3)	消防職員の勤続年数	20
(4)	消防職員研修状況	20
8	消防団	
(1)	消防分団所轄区域、定員及び幹部名	21
(2)	消防団員の勤続年数	22
(3)	消防団員の年齢	22

(4) 消防団員出場状況表	2 3
(5) 消防団員の報酬等	2 3
9 いちき串木野市消防連合後援会	2 4
10 表彰	2 4

### Ⅲ 予防・危険物

1 防火対象物の状況	2 5
2 防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）	2 6
3 建築同意事務等処理状況	
(1) 建築同意状況	2 7
(2) 専用住宅建築確認通知状況	2 7
4 消防用設備等設置検査実施状況	2 7
5 消防法関係届出状況	2 8
6 火災予防条例関係届出状況	2 9
7 防火啓発状況	3 0
8 危険物施設の状況	3 0
9 危険物関係許可・検査処理状況	3 1
10 危険物施設の立入検査状況	3 1
11 液化石油ガス等の保安指導状況	3 2
12 串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況	3 3
13 消防協力団体の結成状況	
(1) いちき串木野市幼少年婦人防火委員会	3 6
(2) 幼年消防クラブ	3 6
(3) 婦人防火クラブ	3 6
(4) 防火管理協会	3 7
(5) 危険物安全協会	3 7

### Ⅳ 火災・救急・救助

1 平成22年中の火災発生状況	3 8
2 火災統計	
(1) 平成22年中の火災状況	3 9
(2) 過去5年間の年別火災概要	4 0
(3) 過去5年間の原因別火災発生件数	4 0
(4) 過去5年間の月別火災発生件数	4 1
(5) 過去5年間の曜日別火災発生件数	4 1
(6) 過去5年間の時刻別火災発生件数	4 2

(7) 火災発生時の気象状況	4 3
3 いちき串木野市における大火記録	4 4
4 救急業務統計	
(1) 救急業務の沿革	4 5
(2) 救急業務取扱状況	4 6
(3) 傷病程度別搬送状況	4 6
(4) 診療科目別搬送状況	4 7
(5) 搬送別状況	4 7
(6) 覚知別出場状況	4 7
(7) 居住地別搬送状況	4 7
(8) 救急救命処置実施状況	4 7
(9) 月別救急出場状況及び搬送人員の状況	4 8
(10) 曜日別救急出場状況	4 9
(11) 現場到着所要時間別出場件数	4 9
(12) 収容所要時間別搬送人員	4 9
(13) 時間別出場状況（急病件数及び総件数）	5 0
(14) 市別搬送状況（搬送先）	5 0
(15) 救急出場件数の推移	5 1
(16) 過去5年間の救急出場状況	5 1
(17) 年齢別搬送人員状況	5 2
(18) 各比率	5 2
5 救助業務統計	
(1) 救助出動状況	5 3
(2) 過去5年間の救助出動状況	5 3
6 応援協定等の締結状況	5 4

## V 機械・水利

1 基準消防力と現有消防力との比較	
(1) 消防本部（署）	5 5
(2) 消防団	5 5
(3) 消防職・団員と市民との割合	5 5
2 消防機械器具及び水利状況	
(1) 消防署の消防車両状況	5 6
(2) 消防団の消防車両及び小型ポンプの状況	
ア 串木野地域	5 7
イ 市来地域	5 8

(3) 署・各分団ポンプ及びホース保有状況	59
(4) 消防資機材の保有状況	60
(5) 消火薬剤等の保有状況	61
(6) 原子力防災資機材の保有状況	61
(7) 消防水利の状況（消防水利の基準に適合しないものも含む。）	
ア 串木野地域	62
イ 市来地域	63
(8) 消防無線の状況	
ア 消防本部	64
イ 消防団	65

## VI 気 象

1 気象観測の状況	66
2 風向の状況	67
3 各地の降水量（防災テレメーターによる。）	67

○東日本大震災	68～69
---------	-------

# I 総括

面積	.....	112.02km <sup>2</sup>
人口	.....	30,778人
世帯数	.....	13,415世帯

(平成23年4月1日現在)

## 1 いちき串木野市のあらまし

いちき串木野市は、平成 17 年 10 月 11 日、旧串木野市と旧日置郡市来町が合併して誕生した新しい市である。

本市は、薩摩半島の北西部にあり西は東シナ海に面し、日本三大砂丘のひとつである吹上浜の北端に位置している。北東側には、標高 516 メートルの徐福伝説のある霊峰冠岳及び 519 メートルの弁財天を最高に数々の分峰が連なり、北は薩摩川内市と接し、南は大里平野と小丘をもって日置市に接している。また、東シナ海に面した良港に恵まれ、近海・遠洋漁業が盛んに行われ「マグロのまち串木野」として知名度が高い。

本市には、今から 4000 年～3000 年前（縄文時代後期中ごろ）から既に人が住みつき、土器を使用し海と関わり、陸地で植物を栽培する生活をしていたことが実証されている。その証として、市来川上貝塚の発見研究により、市来式土器と呼ばれる様式の土器などが多数発掘され、その時代から海と陸の関わりある生活を営んでいたことがうかがわれ、時代とともに集落などの形を変え現在に至っている。

市来湊町では、今から約 400 年前、島津義弘の朝鮮役での活躍を祝って踊られた国指定の重要無形民族文化財の「七夕踊り」や約 200 年前、商港、宿場町として栄えたころ、京都の祇園祭に似せて行われたという「祇園祭」など、その昔からの芸能を現在も引き継いできており、海を介して経済、文化などに影響がもたらされている。

江戸時代末期（1865 年）には、薩摩藩の命により我が国初の海外留学生一行 19 名が、ヨーロッパへ向けて密かに出航し、初代文部大臣森有礼らなど近代日本の幕開けの原動力となった若き薩摩の志士一行が出航した黎明の地が羽島である。

平成 6 年に完成した串木野国家石油備蓄基地は、西薩町から荒川地内にかけて地下の岩盤内にトンネル 10 本を掘削し、我が国で消費される 3 日分に相当する 169 万キロリットルの原油を国の政策に基づき、常圧貯蔵横穴水封固定水床式で備蓄している。

このように本市は、昔から海との関わりが深く、様々な恵みをもたらす海を背景に焼酎・つけあげ・柑橘類などの地元産品、近年ではまぐろラーメン・ポンカレーなど食に関する知名度も向上し、様々な特色のある資源を有しており、現在、港湾施設や臨海部の整備を進めるとともに、企業誘致を図り、串木野新港を主に中国・東南アジア等との国際取引圏づくりをめざしている。

また、南九州西回り自動車道の整備や内陸部の開発などにより、本市を取り巻く交通・物流体系が一段と整備され、活発化している。

古い歴史と伝統のあるまち、白砂青松の吹上浜、山と緑の美しい環境の新しいいちき串木野市は、新市の基本理念として、「ひとが輝く 地域が輝く～地域ブランドによる自立したすこやかな都市の創造～」を設定し、「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」を将来の都市像に掲げ、新しいいちき串木野市の創造に向けて努力しているところである。

## 2 市域の変遷

年 月 日	事 項	面 積 ( km <sup>2</sup> )	人 口			世帯数
			計	男	女	
明治 22. 4. 1	冠岳村、上名村、下名村、荒川村、羽島村の 5 ケ村が合併して串木野村となる。	79.60	—	—	—	
明治 22. 4. 1	湊村、大里村、川上村が合併して、市来村となる。					
昭和 5. 4. 1	町制施行 (市来町)					
昭和 10. 4. 1	町制施行 (串木野町)	79.60	24,637	11,727	12,910	5,501
昭和 25. 10. 1	市制施行 (串木野市)	79.60	33,884	16,483	17,401	7,182
平成 17. 10. 11	串木野市、市来町の 1 市 1 町で合併して、いちき串木野市となる。	112.02	33,087	15,516	17,571	13,601

## 3 消防の沿革

明治 36 年 12 月	○串木野村消防組創立
大正 5 年 9 月	○腕用ポンプ購入
大正 5 年	○市来村湊町に公設消防組を組織 (他の地域は、私設消防組を組織)
大正 9 年	○青年団により私設の島内消防組を組織 (鷹口10丁、水汲み用木製ツルベ10個、梯子1つを配備)
昭和 6 年 10 月	○行幸記念事業で手引ガソリンポンプ購入
昭和 9 年 5 月	○消防ポンプ自動車 (フォード) 購入
6 月	○優良消防組として県知事表彰を受ける。
昭和 10 年 4 月	○町制施行により串木野町消防組に改称
昭和 14 年 4 月	○内務省令により串木野町警防団 (7 分団) に改称 ○市来町警防団を結成 (4 分団)
昭和 20 年 6 月	○中央分団地区から本浦地区を分離し、水上分団を設立
昭和 22 年 8 月	○警防団の組織を串木野町消防団 (8 分団)、市来町警防団 (4 分団) として改編
昭和 23 年 5 月	○串木野町消防団常備部発足 (部員 12 名、消防車 [フォード] 1 台)
9 月	○電話器が常備詰所に設置される。
昭和 25 年 8 月	○優良消防団として消防庁長官表彰を受ける。
10 月	○市制施行により串木野市消防団と改称
昭和 26 年 4 月	○常備部団員定員 14 名となる。(2 名増員)
昭和 29 年 1 月	○常備部詰所を浜田通りロータリー南西角に移転 (現在の旭町 1 番地)
3 月	○常備部に消防ポンプ自動車 (日産) を購入
4 月	○串木野市消防本部・消防署設置 (職員数 15 名) 初代消防長 大園純夫就任
10 月	○消防職員 1 名退職 1 名採用 (実員 15 名)
昭和 30 年 6 月	○中央分団に消防ポンプ自動車 (トヨタ) を購入し、運搬車を照島分団に配置替
8 月	○水上分団及び照島分団に小型動力ポンプ (ラビット) を購入
9 月	○消防団定数条例改正 237 名となる。 ○水上分団を本浦分団に改称
昭和 31 年 5 月	○消防職員 1 名退職 1 名採用 (実員 15 名)
昭和 31 年 10 月～ 昭和 32 年 10 月	○生福、旭、羽島、荒川、冠岳、中央の各分団に小型動力ポンプ、本浦分団に運搬車を購入

昭和33年	4月	○消防団定数条例改正 227名となる。
	6月	○消防職員1名退職1名採用(実員15名)
	11月	○第1回串木野市消防操法技能競技大会を実施
昭和34年	6月	○消防職員1名退職1名採用(実員15名)
昭和34年	7月～	○照島分団に運搬車、本浦・照島分団に小型動力ポンプ、消防署に水槽付ポンプ自動車を購入
昭和35年	10月	
昭和36年	4月	○消防職員1名採用(実員16名)
	5月	○消防職員1名退職1名採用(実員16名)
	9月	○串木野警察署と「災害救助に関する協定」を締結
昭和37年	4月	○中央分団に運搬車、照島分団別府班に小型動力ポンプを購入
昭和38年	11月	○本浦分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入し、運搬車を旭分団に配置替
昭和39年	2月	○本浦分団及び照島分団別府班のポンプ庫を新築
	5月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入
昭和40年	4月	○消防職員1名採用(実員17名)
	7月	○消防団定数条例改正 204名となる。 ○串木野局の電話自動化により119番の専用線を開設
	9月	○消防職員1名市役所へ転出(実員16名)
昭和41年	2月	○日本消防協会より、消防団表彰旗を授与される。
	4月	○消防職員1名採用(実員17名)
	7月	○第2代消防長 大久保重雄就任 ○消防職員1名市役所へ転出1名転入(実員17名)
	11月	○消防署に消防ポンプ自動車(トヨタ)を購入し、昭和29年3月購入の消防ポンプ自動車(日産)を羽島分団に配置替
昭和42年	1月	○羽島分団の車庫を羽島5, 237番地に新築
	7月	○消防職員1名市役所から転入(実員18名) ○市来町・東市来町との消防相互応援協定を締結
	8月	○中央分団に小型動力ポンプを購入 ○消防団定数条例改正 210名となる。
	9月	○消防職員1名採用(実員19名)
昭和43年	2月	○消防署に救急自動車(日産セドリック)を購入、任意で救急業務を開始
	3月	○消防職員1名採用(実員20名)
	5月	○川内市と消防相互応援協定を締結
	12月	○生福分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入
昭和44年	3月	○消防無線局を開設
	4月	○消防職員1名市役所から転入(実員21名)
	8月	○消防職員1名市役所へ転出(実員20名)
	11月	○照島分団に消防ポンプ自動車(トヨタ)を購入(運搬車を廃車)
	12月	○市来町・東市来町との救急業務応援協定を締結
昭和45年	1月	○消防職員1名採用(実員21名)
	4月・5月	○川内市と救急業務相互応援協定、里村・上甕村と救急業務応援協定を締結
	6月	○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」を締結
昭和46年	3月	○旭分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(運搬車を廃車)
	6月	○消防法施行令の一部改正により本市の救急業務実施が義務化
	7月・8月	○樋脇町と消防相互応援協定並びに救急業務応援協定、下甕村と救急業務応援協定を締結
	9月	○消防職員1名採用(実員22名)
	10月	○第3代消防長 入江 森就任

昭和46年	10月	○消防職員1名市役所へ転出（実員21名）
	11月	○消防職員1名採用（実員22名）
		○中央分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を購入（更新）
昭和47年	2月	○市合同庁舎が昭和通133番地1に新築され、消防本部・署も移転
		○中央分団の車庫詰所を旭町1番地2に新築
	3月	○優良消防機関（署・団）として消防庁長官表彰を受ける。
	8月	○荒川分団の車庫詰所を荒川2, 347番地に新築
	12月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳12, 984番地2に新築
		○冠岳分団に消防ポンプ自動車（日産）、羽島分団に小型動力ポンプを購入
昭和48年	2月	○鹿島村と救急業務応援協定を締結
	3月	○生命保険協会から救急自動車の寄贈を受ける。
	7月	○日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け、消防署に配置
		○消防職員1名採用（実員23名）
	9月	○消防職員1名採用（実員24名）
	11月	○荒川分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入
		○旭分団の車庫詰所を下名14, 105番地に新築
昭和49年	4月	○消防職員1名退職1名採用（実員24名）
	11月	○羽島地区の電話自動化により119番専用線を開設
	12月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
昭和50年	9月	○照島分団の車庫詰所を下名7, 574番地1に新築
	10月	○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
	12月	○中央分団に運搬車（トヨタ）を購入（更新）
昭和51年	4月	○羽島分団の車庫に隣接して詰所を新築
	6月	○消防団本部に赤バイ（ヤマハ250cc）を購入
	7月	○本浦分団及び生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	10月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（日産）を購入（更新）
		○市来町消防団役場分団結成
		日本消防協会から可搬動力ポンプ積載車の寄贈及び松下町長の命を受け、17名で発足する。
	12月	○職員定数条例改正 26名となる。
昭和52年	4月	○消防職員1名退職3名採用（実員26名）
	9月	○日本消防協会から救急自動車の寄贈を受ける。
		○旭、照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
昭和53年	3月	○職員定数条例改正 28名となる。
	4月	○消防職員2名採用（実員28名）
	5月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	7月	○羽島分団土川班に小型動力ポンプを購入（更新）
	10月	○日本防火協会から広報車の寄贈を受ける。
昭和54年	3月	○羽島分団土川班のポンプ庫詰所を羽島9, 675番地に新築
	4月	○消防職員2名採用（実員30名）
	5月	○消防職員1名退職（実員29名）
	6月	○照島分団及び照島分団別府班に小型動力ポンプを購入（更新）
	8月	○荒川分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	9月	○荒川分団の小型動力ポンプ（53年5月購入分）を旭分団に配置替
	11月	○消防署に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）
		○本浦分団の車庫詰所を西浜町1番地に新築
	12月	○消防職員1名退職（実員28名）

昭和55年	1月	○第4代消防長 軍神 計就任
	6月	○中央分団に小型動力ポンプを購入(更新)
昭和55年	7月	○冠岳分団に小型動力ポンプを購入(更新)
	12月	○生福分団の車庫詰所を上名9, 129番地に新築
昭和56年	2月	○消防職員1名退職(実員27名)
		○日本自動車工業会から救急車の寄贈を受ける。
	4月	○消防職員2名採用(実員29名)
	5月	○川内地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結(川内市との従前の協定を破棄)
	8月	○第1回串木野市消防団規律訓練大会を実施
昭和57年	3月	○消防職員1名退職(実員28名)
		○甌島4村及び樋脇町との救急業務応援協定を破棄
	10月	○日置地区消防組合と「消防・救急業務応援協定」を締結(市来町・東市来町との従前の協定を破棄)
	11月	○生福分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
昭和58年	12月	○照島分団別府班のポンプ庫詰所を下名3, 362番地2に新築
昭和59年	2月	○消防本部・署の庁舎を昭和通133番地1に新築し移転
	4月	○指宿地区消防組合と「消防無線使用時の混信に関する協定」を締結
	11月	○照島分団に消防ポンプ自動車(日野)を購入(更新)
昭和60年	3月	○第5代消防長 植屋一郎就任
		○消防職員1名市役所へ転出(実員27名)
	4月	○消防職員1名採用(実員28名)
		○串木野ライオンズクラブから指揮連絡車(日産)の寄贈を受け、消防署に配置
	10月	○中央分団に消防ポンプ自動車(日野)を購入(更新)
昭和61年	10月	○消防職員条例定数改正 31名となる。
		○羽島分団土川班に小型動力ポンプ積載車(トヨタ)を購入
	12月	○市来町・樋脇町と「消防相互応援協定」を締結
		○川南分団に消防ポンプ自動車を購入(更新)
昭和62年	3月	○消防職員1名退職(実員27名)
	4月	○消防職員4名採用(実員31名)
	10月	○消防署に消防ポンプ自動車(三菱)を購入(更新)
	12月	○川上分団に消防ポンプ自動車を購入(更新)
昭和63年	12月	○旭分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成元年	2月	○消防署に救急車(トヨタ)を購入(更新)
	3月	○消防職員1名退職(実員30名)
	4月	○消防職員1名採用(実員31名)
	10月	○消防職員条例定数改正 34名となる。
		○冠岳分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成2年	1月	○コーアガス鹿児島(株)から救急車(トヨタ)の寄贈を受ける。
	3月	○昭和56年に日本自動車工業会から寄贈された救急車を運搬車に改造し、照島分団別府班に配置
	4月	○消防職員3名採用(実員34名)
	10月	○消防職員条例定数改正 38名となる。
		○消防署にはしご付消防自動車(24m級)を購入
		○荒川分団に消防ポンプ自動車(日産)を購入(更新)
平成3年	3月	○串木野市消防団条例の全部改正
平成3年	4月	○消防職員2名採用(実員36名)

平成 3 年	9 月	○消防職員 1 名採用（実員 3 7 名） ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
平成 4 年	1 月	○鹿児島県消防相互応援協定締結
	3 月	○羽島分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	4 月	○消防職員 1 名市役所へ異動（実員 3 6 名）
	8 月	○日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車（いすゞ）の寄贈を受け、中央分団に配置 ○石油コンビナート等特別防災区域指定
	1 0 月	○本浦分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新） ○消防庁舎の車庫、倉庫を増改築
	1 1 月	○消防職員 1 名退職（実員 3 5 名） ○昭和 5 0 年に購入した中央分団の運搬車を消防署に配置替
	1 2 月	○消防署に化学消防ポンプ自動車（三菱）を購入
平成 5 年	3 月	○消防職員 1 名退職（実員 3 4 名） ○中央分団の車庫詰所を旭町 1 番地 2 に中央地区コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○第 6 代消防長 俣木一幸就任 ○消防職員 3 名採用（実員 3 7 名）
	1 0 月	○役場分団に小型動力ポンプ積載車を購入（更新）
平成 6 年	3 月	○荒川分団の車庫詰所を荒川 2, 4 5 0 番地に新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 6 名）
	4 月	○消防職員 1 名採用（実員 3 7 名）
	8 月	○串木野海上保安部と「船舶火災の消火に関する業務協定」の一部改正
	1 0 月	○鹿児島県消防相互応援協定の一部改正
	1 2 月	○照島分団別府班に小型動力ポンプ積載車（トヨタ）を購入（更新）
平成 7 年	2 月	○旭分団の車庫詰所を下名 1 4, 1 0 3 番地 1 5 に旭地区コミュニティ消防センターとして新築
	3 月	○冠岳分団の車庫詰所を冠岳 1 2, 9 8 4 番地 2 に冠岳地区コミュニティ消防センターとして新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 6 名）
	4 月	○消防職員 1 名市役所へ異動 ○第 7 代消防長 尾崎正躬就任 ○消防職員 2 名採用（実員 3 8 名）
平成 8 年	3 月	○照島分団の車庫詰所を東島平町 4 1 7 番地 1 に照島地区コミュニティ消防センターとして新築
	4 月	○団本部に指揮連絡車（トヨタ）を購入 ○消防職員 1 名市役所へ異動 ○消防職員 1 名採用（実員 3 8 名）
	8 月	○日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け消防署に配置
	1 1 月	○生福分団に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新） ○昭和 5 7 年に購入した生福分団の消防ポンプ自動車を消防署に運搬車として配置換え ○本浦分団、生福分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成 9 年	1 月	○消防署に消防ポンプ自動車（三菱）を購入（更新）
	3 月	○羽島分団の車庫詰所を羽島 5, 2 1 8 番地に羽島コミュニティ消防センターとして新築 ○消防職員 1 名退職（実員 3 7 名）

平成 9年	4月	○第8代消防長 植ノ原敬一就任 ○消防職員1名採用（実員38名）
	9月	○日本地下石油備蓄(株)串木野事業所と応援協定を締結
	11月	○中央仮設株式会社から指揮広報車の寄贈を受け消防署に配置
	12月	○湊・川北分団に消防ポンプ自動車を購入（更新）
平成10年	1月	○羽島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	2月	○旭分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	3月	○消防職員1名退職（実員37名）
	4月	○川内地区消防組合と「携帯電話等からの119番通報転送等に関する協定」を締結
	8月	○日本消防協会から軽可搬ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。
	12月	○照島分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成11年	3月	○消防職員1名退職（実員36名）
	4月	○第9代消防長 橋之口博繁就任 ○消防職員1名採用（実員38名）
平成12年	3月	○串木野市医師会と「救急救命士に対する医師の指示に関する協定」を締結 ○本浦分団車庫詰所を西浜町1番地2に本浦地区コミュニティ消防センターとして新築（平成11年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	11月	○消防署に小型動力ポンプ付積載車を購入（石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○高規格救急自動車を購入し、平成13年1月1日運用開始（平成12年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○気象情報収集装置を整備（平成12年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業） ○鹿児島県より原子力防災資機材として軽トラック（運搬車）の貸与を受け、消防署に配置
	12月	
平成13年	3月	○消防職員1名退職（実員37名）
	4月	○第10代消防長 平石耕二就任 ○消防署に救急車（トヨタ）を購入（更新） ○荒川、旭、冠岳分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入（平成13年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	12月	
平成14年	9月	○旭分団芹ヶ野ポンプ庫撤去
	12月	○川西薩地区法定合併協議会（2市4町3村）が設置され、消防本部は消防防災分科会を担当 ○消防職員1名市役所へ異動
平成15年	4月	○第11代消防長 福菌照雄就任 ○消防職員1名採用（実員38名） ○串木野市は川西薩地区法定合併協議会を離脱 ○川南・川上分団に小型動力ポンプを購入（更新）
	7月	○串木野・市来合併協議会が設置され、消防本部は消防防災分科会を担当
	10月	○生福地区コミュニティ消防センターの建設用地を購入（上名6, 660番1外2筆・面積452.33㎡）
	12月	（平成15年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成16年	4月	○串木野市消防本部の組織等に関する規則の一部改正 「施設装備係」を「救急救助係」に改めるとともに、消防本部の事務分掌も一部改めた。
	10月	○湊・川北分団に小型動力ポンプを購入（更新）
平成17年	2月	○日置地区消防組合と「川内道路における消防相互応援協定」を締結

平成17年	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国土交通省鹿児島国道事務所・県警察本部交通部高速道路交通警察隊・日置地区消防組合と「南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定」を締結（3月13日 串木野・市来区間開通）</li> <li>○生福分団の車庫詰所を上名6,660番地1に生福地区コミュニティ消防センターとして新築（平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○本浦分団、照島分団、生福分団に小型動力ポンプ（B3級）を購入（平成16年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○簡易地図検索装置を整備（平成16年度緊急地域雇用創出特別基金事業及び原子力防災資機材）</li> <li>○消防職員1名退職（実員37名）</li> </ul>
	4月	○第12代消防長 野田 豊就任
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市町村合併（串木野市と市来町）により新市「いちき串木野市」誕生</li> <li>○いちき串木野市消防本部・消防署・いちき分遣所発足</li> <li>○初代消防長 野田 豊就任</li> <li>○職員8名（日置地区消防組合職員3名・旧串木野市役所職員1名・旧市来町役場職員4名）が転任、実員45名となる。いちき分遣所に12名を配置する。</li> <li>○串木野市消防団と市来町消防団は、合併により1団を形成し、「いちき串木野市消防団」となる。（団長1名、副団長4名、13分団、定数299名）</li> <li>○救急3号車運用開始</li> </ul>
平成18年	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央・照島分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成17年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○消防職員2名退職（実員43名）</li> </ul>
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2代消防長 内屋照男就任</li> <li>○消防職員5名採用（実員48名）</li> </ul>
	12月	○高規格救急車（日産）を購入し、12月23日運用開始（いちき分遣所配置換え）（平成18年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成19年	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消防署に消防ポンプ自動車（日野・CD-I型）を購入（更新）（平成18年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○消防職員1名退職（実員47名）</li> </ul>
	11月	○中央分団に小型ポンプ（B-3級）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
平成20年	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○川南分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○羽島分団に小型動力ポンプ付積載車（日産）を購入（更新）（平成19年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○消防職員1名退職（実員46名）</li> </ul>
	4月	○消防職員2名採用（消防吏員1名、その他職員1名）（実員48名）
平成21年	1月	○川上分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成20年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消防本部・消防署の組織再編を行う。</li> <li>○救急救助係の救助業務を警防係に移管し救急係とする。</li> </ul>
平成22年	1月	○日本消防協会から防災活動車（日産）の寄贈を受け、消防署に配置
	2月	○日置市消防本部から水槽付消防ポンプ自動車（日野）の譲渡を受け、消防署に配置
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旭分団に消防ポンプ自動車（日野）を購入（更新）（平成21年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）</li> <li>○消防職員2名退職（実員46名）</li> </ul>

平成22年	4月	○消防職員2名採用（実員48名）※その他職員から消防吏員に転任（1名） ○第3代消防長 池田 豊 就任
	6月	○消防職員1名退職（実員47名）
平成23年	2月	○鹿児島県消防学校から救助工作車（三菱）の譲渡を受け、消防署に配置 ○消防署に水槽付消防ポンプ自動車（日野・水-II型）を購入（更新） （平成22年度石油貯蔵施設立地対策等交付金事業）
	4月	○消防職員1名採用（実員48名）

#### 4 歴代消防長

##### (1) 旧串木野市消防本部

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	昭和29年 4月	昭和41年 6月	大 園 純 夫
第2代	昭和41年 7月	昭和46年 9月	大 久 保 重 雄
第3代	昭和46年10月	昭和54年12月	入 江 森
第4代	昭和55年 1月	昭和60年 3月	軍 神 計
第5代	昭和60年 3月	平成 5年 3月	植 屋 一 郎
第6代	平成 5年 4月	平成 7年 3月	俣 木 一 幸
第7代	平成 7年 4月	平成 9年 3月	尾 崎 正 躬
第8代	平成 9年 4月	平成11年 3月	植 ノ 原 敬 一
第9代	平成11年 4月	平成13年 3月	橋 之 口 博 繁
第10代	平成13年 4月	平成15年 3月	平 石 耕 二
第11代	平成15年 4月	平成17年 3月	福 菌 照 雄
第12代	平成17年 4月	平成17年10月	野 田 豊

##### (2) いちき串木野市消防本部

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	平成17年10月	平成18年 3月	野 田 豊
第2代	平成18年 4月	平成22年 3月	内 屋 照 男
第3代	平成22年 4月	現 在	池 田 豊

## 5 歴代消防団長

### (1) 旧串木野市

	代	就任年月	退任年月	氏名
消防組	初代	明治36年12月	明治44年5月	中尾浅助
	第2代	明治44年6月	大正5年7月	江藤千代蔵
	第3代	大正5年7月	大正5年11月	松元幸助
	第4代	大正5年11月	大正11年6月	折田金次郎
	第5代	大正11年6月	昭和5年10月	池田良之助
	第6代	昭和5年10月	昭和14年3月	江藤千代蔵
警防団	第7代	昭和14年4月	昭和14年9月	田尻森吉 (町長兼務)
	第8代	昭和14年10月	昭和19年4月	江藤千代蔵
	第9代	昭和19年4月	昭和22年7月	花牟禮武夫
消防団	第10代	昭和22年8月	昭和26年8月	富宿與助
	第11代	昭和26年8月	昭和30年7月	福山盛吉
	第12代	昭和30年8月	昭和37年3月	富宿與助
	第13代	昭和37年4月	昭和43年3月	須崎 巽
	第14代	昭和43年4月	昭和47年3月	寺師彦好
	第15代	昭和47年4月	昭和63年3月	益満利幸
	第16代	昭和63年4月	平成16年3月	網屋長行
第17代	平成16年4月	平成17年10月	岡田正治	

### (2) 旧市来町 (※ 昭和14年4月に警防団を結成、初代団長は井上新吉でその他については、不明)

	代	就任年月	退任年月	氏名
消防団	初代	昭和22年8月	昭和52年4月	田崎勇藏
	第2代	昭和52年5月	昭和57年6月	白石久治
	第3代	昭和57年6月	昭和59年4月	久木菌耕平
	第4代	昭和59年5月	平成3年9月	西ノ園厚志
	第5代	平成3年10月	平成5年3月	前田二夫
	第6代	平成5年4月	平成9年3月	新村明
	第7代	平成9年4月	平成17年10月	山元幸夫

### (3) いちき串木野市

代	就任年月	退任年月	氏名
初代	平成17年10月	現在	岡田正治

## Ⅱ 総務

消防組織 1本部 1署 1分遣所 1団（13分団）

消防職員 48名

（平均年齢 40.2歳）

（平成23年4月1日現在）

消防団員 275名

（平均年齢 46.9歳）

（平成23年4月1日現在）

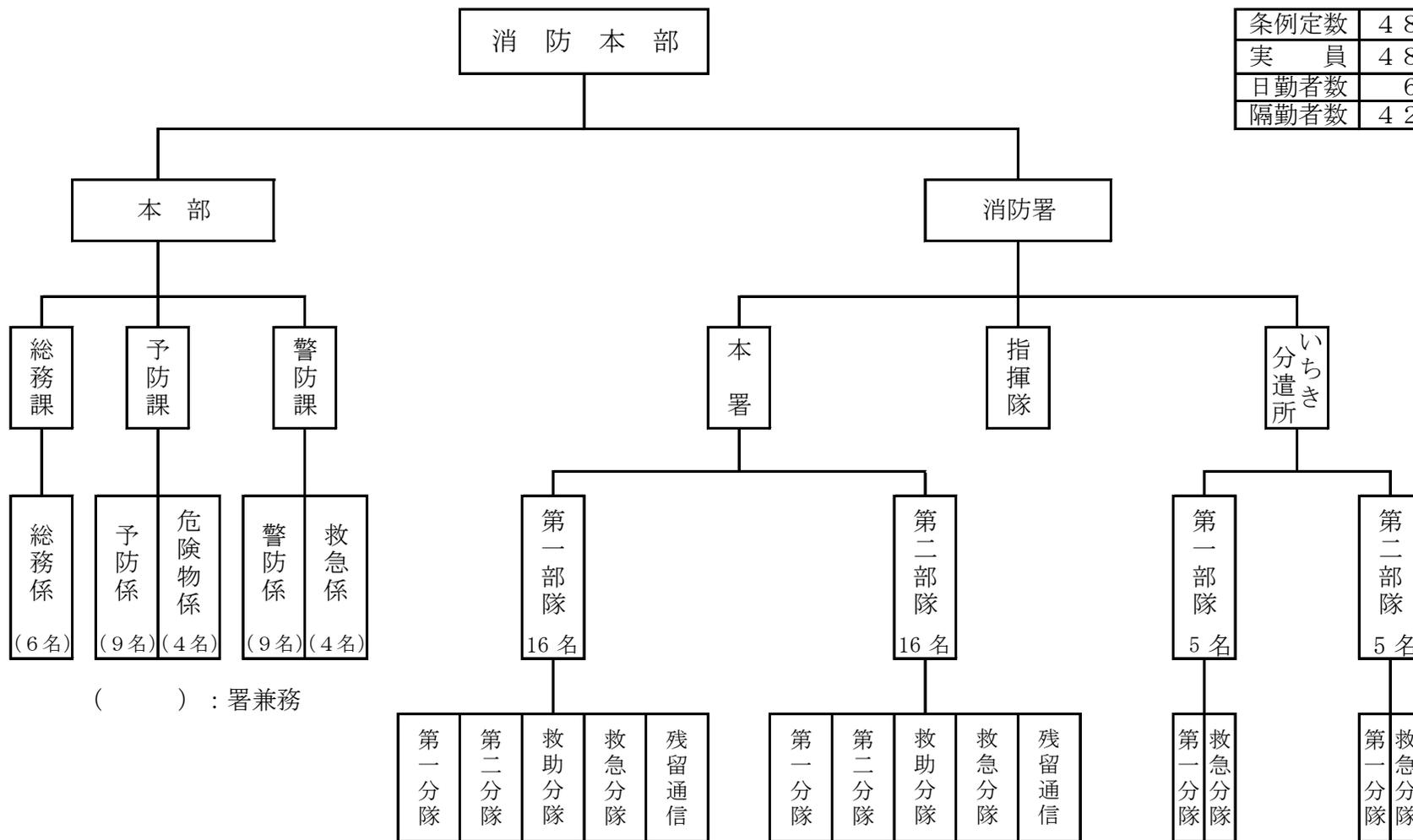
平成23年度消防予算 510,956千円

（住民1人当り 16,601円）

# いちき串木野市消防本部・消防署の組織

平成23年4月1日現在

条例定数	48名
実員	48名
日勤者数	6名
隔勤者数	42名



## 2 消防本部・消防署・分遣所の事務分掌

### <消防本部>

#### 【総務課】

##### ○ 総務係

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| (1) 職員の人事及び組織に関すること。         | (12) 職場及び職員の安全管理並びに衛生管理に関すること。 |
| (2) 職員の服務に関すること。             | (13) 職員の教養、研修等の総括に関すること。       |
| (3) 職員の階級、任免、分限及び懲戒に関すること。   | (14) 情報公開に関すること。               |
| (4) 公務災害補償及び消防賞じゅつ金に関すること。   | (15) 消防年報及び消防統計に関すること。         |
| (5) 予算の編成及び執行に関すること。         | (16) 消防表彰に関すること。               |
| (6) 物品の購入、保管及び処分に関すること。      | (17) 職員及び団員の福利厚生に関すること。        |
| (7) 職員及び団員の被服及び貸与品に関すること。    | (18) 会議及び儀式に関すること。             |
| (8) 公有財産に関すること。              | (19) 消防協会及び消防学校に関すること。         |
| (9) 公印の保管に関すること。             | (20) 消防職員委員会に関すること。            |
| (10) 文書の受発、編さん及び保存に関すること。    | (21) 消防手数料等の収納に関すること。          |
| (11) 条例、規則、規程等の制定及び改廃に関すること。 | (22) 消防長会に関すること。               |
|                              | (23) 消防連合後援会に関すること。            |
|                              | (24) 消防団員互助会に関すること。            |
|                              | (25) 消防団事務に関すること。              |
|                              | (26) 他の係に属さないこと。               |

---

#### 【予防課】

##### ○ 予防係

- |                            |                               |
|----------------------------|-------------------------------|
| (1) 火災予防の企画に関すること。         | (6) 防火管理者の指導及び育成に関すること。       |
| (2) 火災予防査察に関すること。          | (7) 防火管理協会及び幼少年婦人防火委員会に関すること。 |
| (3) 建築同意事務に関すること。          | (8) その他火災予防に関すること。            |
| (4) 消防用設備等に係る検査及び指導に関すること。 |                               |
| (5) 火災の調査、統計、報告及び証明に関すること。 |                               |

---

##### ○ 危険物係

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| (1) 危険物施設の許認可及び検査並びに指導に関すること。 | (5) 石油コンビナート等特別防災区域の指導に関すること。                   |
| (2) 危険物の仮貯蔵及び仮取扱いの承認に関すること。   | (6) 火薬類取締法（昭和 25 年法律第 149 号）の規定に基づく煙火の消費に関すること。 |
| (3) 危険物施設の予防査察に関すること。         | (7) 危険物安全協会に関すること。                              |
| (4) 液化石油ガス販売事業の意見書に関すること。     | (8) その他危険物に関すること。                               |

## 【警防課】

### ○ 警防係

- (1) 消防計画及び各種防災計画に関する  
こと。
- (2) 火災その他の災害等の警戒及び防御に  
関すること。
- (3) 災害統計（火災、救急統計を除く。）及び  
報告に関すること。
- (4) 消防応援協定に関すること。
- (5) 職員及び団員の警防関係教育訓練に関  
すること。
- (6) 消防施設、装備等の整備計画及び維持管理  
に関すること。
- (7) 国庫補助金、石油交付金等に関する  
こと。
- (8) 気象、防災情報等の収集、伝達及び広報に  
関すること。
- (9) 消防無線及び防災行政無線に関する  
こと。
- (10) 消防用燃料の受払いに関する  
こと。
- (11) 救助及び潜水業務に関する  
こと。
- (12) その他警防に関する  
こと。

---

### ○ 救急係

- (1) 救急業務に関する  
こと。
- (2) 救急の統計、報告及び証明に関する  
こと。
- (3) 職員の救急教育訓練に関する  
こと。
- (4) 救急資機材の維持管理に関する  
こと。
- (5) 応急手当の普及啓発に関する  
こと。
- (6) 医師会、医療機関等との連絡調整に  
関すること。
- (7) その他救急に関する  
こと。

---

## <消防署>

- (1) 消防通信及び受付事務に関する  
こと。
- (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活  
動に関する  
こと。
- (3) 火災その他の災害の警戒に関する  
こと。
- (4) 署内の会議に関する  
こと。
- (5) 署長会に関する  
こと。
- (6) 防火広報、予防及び警防査察の実施に  
関すること。
- (7) 署員及び団員の訓練に関する  
こと。
- (8) 消防水利及び地理調査に関する  
こと。
- (9) 防火対象物の訓練指導に関する  
こと。
- (10) 防火協力団体等の指導育成に関  
する  
こと。
- (11) 気象、防災情報及び火災警報等に  
関する  
こと。
- (12) 応急手当の普及に関する  
こと。
- (13) 空地及び空家の管理指導に関  
する  
こと。
- (14) 住宅等の火災予防に関する  
こと。
- (15) 消防資機材の出納及び保管に関  
する  
こと。
- (16) その他消防業務の実施に関  
する  
こと。

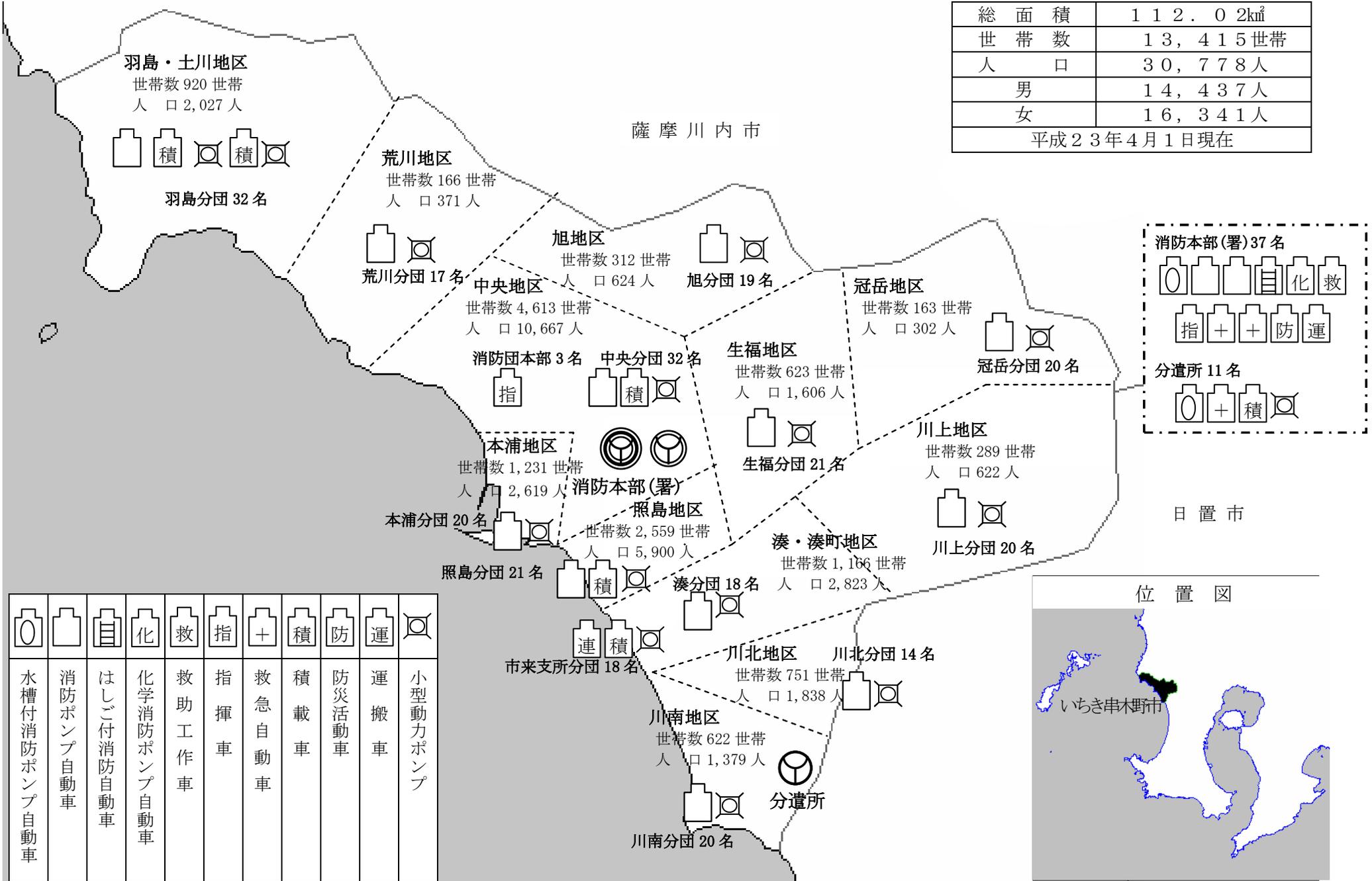
---

## <分遣所>

- (1) 受付事務に関する  
こと。
- (2) 火災、救急、救助、風水害等の災害活  
動に関する  
こと。
- (3) 火災その他の災害の警戒に関する  
こと。
- (4) 防火広報、予防及び警防査察の実施に  
関すること。
- (5) 消防水利及び地理調査に関する  
こと。
- (6) 防火対象物の訓練指導に関する  
こと。
- (7) 防火協力団体等の指導育成に関  
する  
こと。
- (8) 応急手当の普及に関する  
こと。
- (9) 空地及び空家の管理指導に関  
する  
こと。
- (10) 住宅等の火災予防に関する  
こと。
- (11) その他消防業務の実施に関  
する  
こと。

### 3 いちき串木野市消防現勢分布図

総面積	112.02km <sup>2</sup>
世帯数	13,415世帯
人口	30,778人
男	14,437人
女	16,341人
平成23年4月1日現在	



#### 4 消防庁舎・分遣所・詰所（車庫含む。）の状況

##### (1) 消防本部（署）・分遣所

所管	所在地	構造	敷地面積㎡	建築面積等㎡	建築年月
消防本部 消防署	昭和通 133番地1	鉄筋コンクリート造 2階建	1,603.54	庁舎建築面積 618.80 庁舎延面積 1,020.76 訓練塔(5階建)延 80.0	着工 S58.7.27 竣工 S59.3.20 増改築 H4.10.22
いちき 分遣所	大里 11番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	3,160.00	庁舎建築面積 301.62 訓練塔 25.00	完成 S57.9.28 増改築完成 H11.3.3 完成 H14.11.20

##### (2) 消防団

所管	所在地	構造	敷地面積㎡	建築面積等㎡	建築年月
中央分団	旭町 1番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	227.02	建築面積 69.08 延面積 118.28	H5.3
本浦分団	西浜町 1番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	165.29	建築面積 52.79 延面積 86.00	H12.3
照島分団	東島平町 417番地1	鉄筋コンクリート造 2階建	167.65	建築面積 64.71 延面積 120.08	H8.3
	(別府班) 下名 3,362番地2	鉄筋コンクリート造 平屋建	100.00	建築面積 40.00 床面積 40.00	S58.12
羽島分団	羽島 5,218番地	鉄筋コンクリート造 2階建	羽島コミュニ ティセン ター敷地内	建築面積 89.25 延面積 120.74	H9.3
	(土川班) 羽島 9,675番地	鉄筋コンクリート造 平屋建		建築面積 40.80 床面積 40.80	S54.3
荒川分団	荒川 2,450番地	鉄筋コンクリート造 平屋建	小学校敷地内	建築面積 72.00 床面積 72.00	H6.3
旭分団	下名 14,103番地15	鉄骨造平屋建	旭コミュニ ティセンタ ー敷地内	建築面積 72.00 床面積 72.00	H7.2
生福分団	上名 6,660番1	鉄筋コンクリート造 2階建	452.33	建築面積 72.96 延面積 130.08	H17.3
冠岳分団	冠岳 12,984番地2	鉄筋コンクリート造 2階建	231.38	建築面積 37.50 延面積 75.00	H7.3
資材倉庫	東島平町 26番地 (旧照島分団車庫)	鉄骨スレート造 平屋建	129.80	建築面積 62.65 延面積 62.65	S50.9
湊分団	湊町 1丁目252番地	鉄筋コンクリート造 2階建	1,128.79 のうち一部	建築面積 81.52 延面積 136.80	S58.3
川南分団	大里 705番地11	鉄骨造H型 2階建	230.57	建築面積 53.38 延面積 106.76	S61.12
川北分団	大里 5,631番地	鉄骨造 2階建	595.31	建築面積 53.535 延面積 107.07	H4.12
川上分団	川上 1,171番地	鉄骨造H型 2階建	1,505.02 のうち一部	建築面積 48.19 延面積 96.38	S62.11
市来支所 分団	湊町1丁目1番地	鉄筋コンクリート造 2階建	7600.82 のうち一部	建築面積 46.80 延面積 93.60	H5.12

## 5 平成22年度の主な行事

4月	9日	第1回消防幹部会議（消防本部会議室）
5月	9日	消防団員初任者研修会（消防本部会議室他）
	14日	第2回消防幹部会議（消防本部会議室）
	16日～17日	消防団分団長以上幹部研修視察（大分県由布市他）
	24日	消防連合後援会総会（市内）
6月	1日～7月15日	ウミガメ保護監視パトロール（市来地域の5分団）
	6日	消防団員互助会総会（消防本部会議室）
7月	18日	第3回いちき串木野市消防団消防操法大会（公設地方卸売市場）
8月	1日	県消防協会日置支部消防操法大会（羽島分団、中央分団出場：日置市吹上町）
	5日	全国消防長会技術委員会（秋田県湯沢市）
	26日～27日	防火管理講習会（中央公民館）
	27日	第39回全国消防救助技術大会（潟野士長、松田消防士出場：京都市）
	29日	消防団部長以上幹部研修会（川南地区公民館）
	29日	湊・湊町地区自主防災訓練（湊・市来支所分団）
9月	15日	消防職員委員会（消防本部会議室）
	17日～18日	県消防協会日置支部長・消防団長研修会（長崎県島原市）
10月	5日	県石油コンビナート等防災訓練（串木野基地）
	15日	第3回消防幹部会議（消防本部会議室）
	22日	第5回いちき串木野市防火管理協会自衛消防隊対抗防火大会
11月	7日	火災防ぎょ訓練（旭地区）
	9日～15日	秋季火災予防運動
	14日	消防合同演習（羽島地区）
	14日	消防団員・家族体育大会（市来中学校グラウンド）
	26日	危険物安全協会及び防火管理協会合同研修視察（志布志国家石油備蓄基地）
	26日	第4回消防幹部会議（消防本部会議室）
12月	6日	警察・海保・消防合同年末年始特別警戒出発式（串木野漁港突堤岸壁地）
	29日～30日	消防団年末夜警（市内全域）
	29日	消防団年末夜警の市長等巡視
1月	9日	平成23年消防出初式（市民文化センター）
2月	16日	第5回消防幹部会議（消防本部会議室）
3月	1日～7日	春季火災予防運動

## 6 消防予算

### (1) 平成22・23年度消防予算（当初予算）

（単位：千円）

款・項・目	節	平成22年度	平成23年度	比較増減
9. 消防費		508,804	510,956	2,152
1. 消防費		508,804	510,956	2,152
	1. 常備消防費	430,793	429,929	△ 864
	給料	175,624	182,672	7,048
	職員手当等	127,989	123,627	△ 4,362
	共済費	58,608	63,336	4,728
	賃金	4,104	666	△ 3,438
	旅費	1,418	1,215	△ 203
	需用費	9,378	9,094	△ 284
	役務費	3,275	2,589	△ 686
	委託料	1,076	1,108	32
	使用料及び賃借料	2,201	681	△ 1,520
	原材料費	19	18	△ 1
	備品購入費	45,225	43,049	△ 2,176
	負担金、補助及び交付金	916	1,750	834
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公課費	959	123	△ 836
	2. 消防団費	62,866	60,993	△ 1,873
	報酬	13,281	13,281	0
	共済費	6,383	6,383	0
	災害補償費	1,513	1,513	0
	報償費	5,364	5,245	△ 119
	旅費	29,791	26,130	△ 3,661
	需用費	3,448	5,149	1,701
	役務費	809	1,133	324
	使用料及び賃借料	245	95	△ 150
	原材料費	15	15	0
	備品購入費	857	702	△ 155
	負担金、補助及び交付金	806	741	△ 65
	補償、補填及び賠償金	1	1	0
	公課費	353	605	252
	3. 消防施設費	3,903	8,221	4,318
	需用費	1,290	1,274	△ 16
	委託料	1,224	4,944	3,720
	使用料及び賃借料	6	6	0
	原材料費	21	21	0
	備品購入費	242	846	604
	負担金、補助及び交付金	1,120	1,130	10
	4. 水防費	100	101	1
	5. 災害対策費	11,142	11,712	570

(2) 市総予算と消防予算（当初予算）

(単位：千円)

区分 年度別	市 総 予 算	消 防 予 算	割 合 (%)	消 防 予 算 内 訳									
				常 備 消 防 費	割 合 (%)	消 防 団 費	割 合 (%)	消 防 施 設 費	割 合 (%)	水 防 費	割 合 (%)	災 害 対 策 費	割 合 (%)
19	12,838,000	501,897	3.9	389,619	77.6	92,376	18.4	5,491	1.1	108	0.02	14,303	2.8
20	12,457,000	494,324	4.0	390,564	79.0	83,997	17.0	8,188	1.7	105	0.02	11,470	2.3
21	12,470,000	479,371	3.8	387,888	80.9	80,018	16.7	1,355	0.3	100	0.02	10,010	2.1
22	13,042,000	508,804	3.9	430,793	84.7	62,866	12.4	3,903	0.8	100	0.02	11,142	2.2
23	14,776,000	510,956	3.5	429,929	84.1	60,993	11.9	8,221	1.6	101	0.02	11,712	2.3

(3) 消防予算と人口・世帯数との比較（当初予算）

年度	消 防 予 算 (円)	住民一人当たりの 消 防 費 (円)	一世帯当たりの 消 防 費 (円)	人 口 (人)	
				人 口	世 帯 数
19	501,897,000	15,519	37,153	32,340	13,509
				31,784	13,468
20	494,324,000	15,553	36,704	31,424	13,459
				31,158	13,457
21	479,371,000	16,330	37,810	30,778	13,415
				30,778	13,415
22	510,956,000	16,601	38,088	30,778	13,415
				30,778	13,415
23	510,956,000	16,601	38,088	30,778	13,415
				30,778	13,415

## 7 人事・教養

### (1) 消防職員の配置状況

(H23. 4. 1現在)

階級	区分	実員	消防本部							消防署			分遣所			
			消防 長	消防 参事 兼次 長	課 長	総 務 係	予 防 係	危 険 物 係	救 急 係	警 防 係	署 長	第 一 部 隊	第 二 部 隊	分 遣 所 長	第 一 部 隊	第 二 部 隊
司令長		1	1※													
司令		7			3※	1	1					1※	1	1	1※	
司令補		10						1	1	1			4	4		1 1
士長		21											7	7		3 4
副士長		0														
消防士		9											4	4		1
その他		0														
合計		48	1		3	1	1	1	1	1		1	16	16	1	5 5

注 1. ※印は日勤者  
2. 各係長は署員を兼ねる

### (2) 消防職員の年齢

(H23. 4. 1現在)

階級	年齢	20	20	25	30	35	40	45	50	55	60	合	平
		歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳		
		未	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	〜	以		年
		満	24	29	34	39	44	49	54	59	上		齢
司令長										1		1	59.0
司令								2	4	1		7	51.3
司令補							3	6	1			10	45.7
士長					3	7	9	2				21	38.6
副士長													
消防士			4	2	2	1						9	27.1
その他													
合計			4	2	5	8	12	10	5	2		48	40.2

### (3) 消防職員の勤続年数

(H23.4.1現在)

階級	勤続年数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年～34年	35年以上	合計
司令長									1	1
司令							2	5		7
司令補						7	2	1		10
士長	1	6	3	7	4					21
副士長										0
消防士	4	5								9
その他										0
合計		5	11	3	7	11	4	6	1	48

### (4) 消防職員研修状況

(H23.4.1現在)

学科別		年度別	平成17年度以前の実績	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計
大消防学校	救助科		1						1
	火災調査講習会		2						2
消防学校	初任科		35	3	4	3		3	48
	救急Ⅰ課程		21						21
	救急Ⅱ課程		14						14
	救急標準課程		9						9
	救急科				1	3	3	3	10
	気管挿管講習		2	2	1	2	1		8
	救助科		13					2	15
	警防科		1		1		1		3
	予防科(課程)		7						7
	査察課程		1						1
	予防査察課程		2				1		3
	火災調査課程		7			1			8
	初級幹部科		1		1		1		3
	中級幹部科		1			1		1	3
無線科		1						1	
職員指導員科		2						2	
梯子車研修		4						4	
九州救命研修所	救急救命士研修		8		1		1		10
	薬剤投与追加講習				1	1	1	1	4
	気管挿管講習		4			2	1	1	8
	薬剤投与病院実習		2			1	1		4
	気管挿管病院実習		1	1	1	1	1	1	6
開海発洋機研構	潜水業務管理研修					2			2
	潜水技術特別研修		1						1
	潜水技術指導研修						1		1
	消防救急緊急自動車運転技能者研修		1						1
	九州地区警防実務研修					1	1		2
	合計		141	6	11	17	13	14	202

## 8 消防団

### (1) 消防分団所轄区域、定員及び幹部名

(H23.4.1現在)

分団 区分	団 本 部	中 央	本 浦	照 島	羽 島	荒 川	旭	生 福	冠 岳	湊	川 南	川 北	川 上	市 来 支 所	合 計	
団 長	1														1	
副団長	2														2	
分団長		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	
副分団長		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	
部 長		4	2	3	4	2	2	3	2	2	2	2	2	2	32	
班 長		6	4	5	6	4	4	5	4	4	4	4	4	4	58	
団 員		20	12	11	20	9	11	11	12	10	12	6	12	10	156	
実 員	3	32	20	21	32	17	19	21	20	18	20	14	20	18	275	
定 員	3	32	20	25	32	20	20	25	20	20	20	20	20	20	297	
所 轄 区 域		串 木 野 地 区  (本浦分団区域を除く。)	本 浦 地 区	照 島 地 区	羽 島 ・ 土 川 地 区	荒 川 地 区	旭 地 区	生 福 地 区	冠 岳 地 区	湊 ・ 湊 町 地 区	大 里 の う ち 川 南 地 区	大 里 の う ち 川 北 地 区	川 上 地 区	市 来 地 域		
世帯数		4,613	1,231	2,559	920	166	312	623	163	1,166	622	751	289		13,415	
人 口		10,667	2,619	5,900	2,027	371	624	1,606	302	2,823	1,379	1,838	622		30,778	
団 長	副団長	分 団 長														
岡 田 正 治	井 原 手 迫 政 昭	柳 田 三 男	上 新 薫	石 川 一 仁	久 保 一 夫	東 幸 基	竹 之 下 直 正	池 之 上 年 治	松 下 進	迫 勝 博	田 崎 昭 彦	池 田 郁 郎	大 迫 修 藏	中 間 久 敬		

(2) 消防団員の勤続年数

(H23. 4. 1現在)

階級 \ 勤務年数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年～34年	35年以上	合計
団長								1	1
副団長								2	2
分団長				1		5	3	4	13
副分団長				1	2	4	3	3	13
部長			1	7	9	8	6	1	32
班長		2	10	26	8	6	5	1	58
団員	62	40	38	6	7	3			156
合計	62	42	49	41	26	26	17	12	275

(3) 消防団員の年齢

(H23. 4. 1現在)

階級 \ 年齢	24歳以下	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	合計	平均年齢
団長										1	1	68.0
副団長										2	2	66.0
分団長				1			1	1	5	5	13	61.0
副分団長				1		1		3	6	2	13	58.4
部長				1	1	2	6	12	8	2	32	56.4
班長				6	4	10	15	19	4		58	51.0
団員	5	16	30	31	22	14	14	15	9		156	40.9
合計	5	16	30	40	27	27	36	50	32	12	275	46.9

(4) 消防団員出場状況表

(H22年度)

分団別 出場区分		分団別															合計
		団本部	中央	本浦	照島	羽島	荒川	旭	生福	冠岳	湊	川南	川北	川上	市来支所		
火災等災害	火災	回数	5	3	3	3	1	0	0	3	1	1	1	1	1	2	25
		人員	8	66	52	46	24	0	0	61	18	15	12	5	16	19	342
	風水害等の災害	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	回数	5	3	3	3	1	0	0	3	1	1	1	1	1	2	25
		人員	8	66	52	46	24	0	0	61	18	15	12	5	16	19	342
演習訓練等	演習訓練	回数	10	39	29	29	39	29	29	28	30	27	38	26	37	27	417
		人員	25	372	249	268	382	192	241	254	207	249	287	223	302	195	3,446
	その他	回数	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
		人員	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	小計	回数	25	39	29	29	39	29	29	28	30	27	38	26	37	27	432
		人員	40	372	249	268	382	192	241	254	207	249	287	223	302	195	3,461
その他の	広報指導	回数	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
		人員	0	64	20	23	32	18	19	24	19	17	20	15	20	20	311
	警防調査等	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別警戒	回数	3	3	4	3	3	3	2	2	2	3	3	2	2	2	37
		人員	9	35	28	26	35	20	19	25	20	20	23	16	21	21	318
	捜索	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	回数	17	13	13	12	15	13	12	13	13	12	11	10	10	12	176
		人員	38	44	35	40	44	30	28	35	32	28	49	26	26	32	487
	小計	回数	20	18	18	16	19	17	15	16	16	16	15	13	13	15	227
		人員	47	143	83	89	111	68	66	84	71	65	92	57	67	73	1,116
合計	延回数	50	60	50	48	59	46	44	47	47	44	54	40	51	44	684	
	延人員	95	581	384	403	517	260	307	399	296	329	391	285	385	287	4,919	

(5) 消防団員の報酬等

(単位：円)

階級 区分		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
		報酬	143,200	92,500	84,400	46,700	42,700	41,200
費用弁償	技術報酬	消防ポンプ車等の機関員 年額15,000 小型動力ポンプ機関員 年額10,000						
	災害・訓練等 出動手当	1回1人 5,100						

## 9 いちき串木野市消防連合後援会

(H23.5.23現在)

後援会(部)名	会(部)長	役職名
中央分団後援会	野元克己	会長
本浦分団後援会	福岩宏基	
照島分団後援会	濱涯龍也	監事
羽島地区公民館消防後援部	平野正憲	副会長
荒川地区公民館消防後援部	別府嶺頭	
旭地区公民館消防後援部	山下二直男	
生福地区公民館消防後援部	木ノ下伊丸	
冠岳地区公民館消防後援部	松下兵衛	
湊分団後援会	妙円園努	
川南分団後援会	本田幸広	
川北分団後援会	松崎直孝	副会長
川上分団後援会	内田政司	監事

## 10 表彰(平成21年度)

- (1) 消防庁長官表彰
- 永年勤続功労章
    - (団本部) 原口政敏
    - (川南) 田崎昭彦
- (2) 日本消防協会会長表彰
- 功績章
    - (団本部) 井手迫正昭
  - 勤続章
    - (川上) 大迫修藏
    - (本浦) 小松秀貴
    - (本部) 原菌照明
    - (本部) 若松勝司
- (3) 鹿児島県知事表彰
- 40年勤続章
    - (川南) 宇都耕平
  - 10年勤続章
    - (支所) 松崎英樹
    - (支所) 中間光彦
    - (旭) 三浦久士
    - (旭) 宮田淳
    - (生福) 入枝敏郎
    - (冠岳) 井之上善一
    - (冠岳) 宇都博康
    - (冠岳) 谷口正篤
    - (湊) 久保公彦
- (4) 全国消防長会会長表彰
- 20年勤続功労者章
    - (本部) 藤崎節夫
    - (本部) 下袴田良次
    - (本部) 田島和広
- (5) 鹿児島県消防協会総裁表彰
- 功績章
    - (中央) 田代久治
    - (照島) 上夷修二
    - (川上) 藤崎貢
    - (川上) 富永豊
    - (羽島) 川口勝良
    - (本部) 藤崎節夫
    - (本部) 下袴田良次
    - (本部) 田島和広
  - 精績章
    - (支所) 芹ヶ野幸淑
    - (照島) 石野潤一
    - (照島) 馬田義博
    - (旭) 中山勝
    - (生福) 久徳五男
    - (湊) 松下良照
    - (荒川) 竹之内勉
    - (川南) 宇都幸弘
    - (川上) 東園末男
    - (本部) 潟野真
- (6) 鹿児島県消防協会日置支部長表彰
- 15年勤続章
    - (支所) 重信幸紀
    - (荒川) 鮫島和光
    - (川北) 西中間俊和
    - (中央) 西田憲智
    - (中央) 横須新一
    - (照島) 西良二
    - (旭) 新屋敷晶
    - (旭) 龍菌誠
    - (照島) 坂口和徳
    - (照島) 新村義実
- (7) いちき串木野市長表彰
- 10年勤続章
    - (支所) 中間光彦
    - (本浦) 竹中昭彦
    - (荒川) 古園辰也
    - (旭) 宮田淳
    - (旭) 今藤正弘
    - (生福) 入枝敏郎
    - (冠岳) 井之上善一
    - (冠岳) 宇都博康
    - (冠岳) 谷口正篤
- (8) いちき串木野市長感謝状
- 20年以上勤続団員の奥様
    - (中央) 宮之原恵美子
    - (照島) 西村真由美
    - (川上) 湊脇恵津美
    - (羽島) 小嶋恵美子
  - 須賀婦人消防協力隊
    - (30年勤続)
    - 永井富子
    - (永年勤続)
    - 五島ミエ子

### Ⅲ 予防・危険物

防火対象物数（法第 17 条）・・・・・・・・ 1, 120

危険物施設数（法第 11 条）・・・・・・・・ 148

## 1 防火対象物の状況

多数の人が利用する建築物は、火災が発生した場合人命危険が大きいため、一定規模以上の建築物については、防火管理者の選任及び消火設備、警報設備、避難設備などの消防用設備等の設置と維持管理が消防法で義務付けられている。(H23.4.1現在)

対 象 物 別		区 分	対 象 物 数 (150㎡以上)	防火管理者が必 要な対象物数 (150㎡未満を含む)	定期点検 が必要な 対象物数
1 項	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	1	1	1
	ロ	公会堂、集会場	20	48	10
2 項	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブの類			
	ロ	遊技場、ダンスホール	4	4	4
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等			
	ニ	カラオケボックス等	1	1	
3 項	イ	待合、料理店の類			
	ロ	飲食店	19	22	2
4 項		百貨店、マーケット、展示場の類	46	27	7
5 項	イ	旅館、ホテル、宿泊所の類	7	5	2
	ロ	寄宿舎、下宿、共同住宅	195	15	
6 項	イ	病院、診療所、助産所	33	18	
	ロ	老人福祉施設等（入所施設）	12	11	
	ハ	保育所、老人デイサービスセンター等	16	9	
	ニ	幼稚園、特別支援学校	18	5	
7 項		小・中・高・大学各種学校の類	79	16	
8 項		図書館、博物館、美術館の類	2	2	
9 項	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場の類			
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	1	
10 項		車両の停車場又は船舶、航空機の発着場	1		
11 項		神社、寺院、教会の類	5	4	
12 項	イ	工場、作業場	176	12	
	ロ	映画スタジオ、テレビスタジオ			
13 項	イ	自動車車庫、駐車場	35		
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
14 項		倉庫	122		
15 項		前各項に該当しない事業場	154	27	
16 項	イ	特定防火対象物が存する複合用途対象物	111	39	8
	ロ	上記以外の複合用途対象物	58	2	
16の2 項		地下街			
16の3 項		準地下街			
17 項		重要文化財の類			
18 項		延長 50m以上のアーケード	1		
合 計			1120	269	34

2 防火対象物階層別状況（4階以上・棟数）

（H23.4.1現在）

令別表第一区分		4階	5階	6階	10階	合計
5項	イ 旅館・ホテル等	1 湊町 1				1
	ロ 共同住宅・寄宿舎等	41 中央 11 本浦 5 照島 10 羽島 1 川北 5 湊町 5 湊 4	15 中央 1 照島 13 湊町 1			56
6項	イ 病院・診療所等	5 中央 1 照島 3 湊町 1				5
	ロ 各種福祉施設等	1 川南 1	1 中央 1			2
7項	小学校・中学校・高等学校・大学、各種学校等	3 照島 3	2 照島 2			5
12項	イ 工場又は作業場	2 中央 1 荒川 1				2
14項	倉庫	1 本浦 1				1
15項	前各項に該当しない事業場（事務所等）	4 中央 1 本浦 2 羽島 1				4
16項	イ 複合用途防火対象物（特定用途部分を含むもの）	9 中央 9	1 中央 1	1 中央 1	1 中央 1	12
	ロ 複合用途防火対象物（特定用途部分を含まないもの）	4 中央 4				4
合計		71	19	1	1	92
地区別	中央	27	3	1	1	32
	本浦	8				8
	照島	16	15			31
	羽島	2				2
	荒川	1				1
	川南	1				1
	川北	5				5
	湊	4				4
湊町	7	1			8	
専用住宅		1				1

### 3 建築同意事務等処理状況

#### (1) 建築同意状況

(H22年度)

対象物別 工事種別	三 項 口	四 項	六 項 イ	六 項 口	六 項 ハ	九 項 口	十 一 項	十 二 項 イ	十 三 項 イ	十 四 項	十 五 項	専 住 そ の 他	合 計
新 築	1	1	1	1	1	1	1	2	1	4	5	4	23
増 築								1				1	2
そ の 他													
合 計	1	1	1	1	1	1	1	3	1	4	5	5	25

#### (2) 専用住宅建築確認通知状況

(H22年度)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
件 数	8	13	6	9	16	14	10	10	12	3	7	11	119

### 4 消防用設備等設置検査実施状況

(H22年度)

対象物別 設 備 別	二 項 二	四 項	五 項	六 項 イ	六 項 口	六 項 ハ	九 項 口	十 二 項 イ	十 四 項	十 六 項 イ	合 計
消 火 器		2	1	2		2	1	3		1	12
屋 内 消 火 栓 設 備								1			1
非 常 警 報 設 備				1	1						2
自 動 火 災 報 知 設 備		1		4	1			2	1	2	11
非 常 警 報 設 備				1			1				2
誘 導 灯		2		3		2	1		1	2	11
誘 導 標 識	1							2		1	4
避 難 器 具 設 備				1							1
合 計	1	5	1	12	2	4	3	8	2	6	44

## 5 消防法関係届出状況

(H 2 2 年度)

対象物別		区別	防火管理者 選任届	防火管理者 解任届	消防計画 作成(変更)届	工事整備対象 設備等着工届	消防用設備等 (特殊消防用設備等) 設置届	消防用設備等 点検結果報告
1項	イ					1		1
	ロ		2	2	2			19
2項	イ							
	ロ		2	1	5			6
	ハ						1	
	ニ						1	
3項	イ							1
	ロ		1		1			11
4項		5	5	6	1	2		21
5項	イ					1		10
	ロ		5	4	4		1	17
6項	イ		1	1	2	5	7	28
	ロ		2	1	2	2	3	16
	ハ				1		1	8
	ニ		1	1	2			8
7項		7	7	6				26
8項								1
9項	イ							
	ロ		1		1	2	1	1
10項								2
11項		1	1	1				1
12項	イ		3	3	5	4	7	19
	ロ							
13項	イ							1
	ロ							
14項						1		6
15項		2	3	2	2			28
16項	イ		4	4	5	1	5	29
	ロ				1	5		1
16の2項								
16の3項								
17項								
18項								
19項								
20項								
合計			37	33	46	24	30	261

## 6 火災予防条例関係届出状況

(H22年度)

種 別 \ 月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
炉													
ボイラー設備		1					1		2		1		5
変電設備	1							1					2
発電設備													
蓄電池設備													
乾燥設備													
水素ガスを充てんする気球	1					1	1	2					5
消防用設備等緩和願													
防火対象物使用開始	5		1	1	1	2	1		3			1	15
火災とまぎらわしい煙又は 火災を発生するおそれのある行為	2	2	1	1	1		1	1	5	8	3	2	27
煙火打ち上げ	2	1			3	13	3	1	2			3	28
禁止行為の解除承認													
給湯湯沸設備													
道路工事	12	7	7	4	9	8	6	6	7	8	2	8	84
合 計	23	11	9	6	14	24	13	11	19	16	6	14	166

## 7 防火啓発状況

(H22年度)

方 法	対 象	回 数	備 考
広 報 車	市 内 全 域	2	春・秋火災予防運動期間中 又は火災気象通報発表時 等の防火上警戒を要する 時に実施
防 災 行 政 無 線	市 内 全 域	44	
広報くしきの(おしらせ版)	市 内 全 家 庭	8	
防 火 ポ ス タ ー 配 布	市 内 各 事 業 所 等	16	
避 難 訓 練 等 指 導	各公民館・各事業所等	139	各公民館、各事業所等から の依頼で実施
防 火 ・ 防 災 座 談 会	各公民館・各事業所等	10	各種会合時、又は公民館等 からの依頼で実施

## 8 危険物施設の状況

(H23.4.1現在)

施設区分 倍数別	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所				合 計
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
5倍以下	1	4	5		13		14		3			12	52
5倍を越え 10倍以下		2	4	2	6		2	2	6			8	32
10倍を越え 50倍以下	1		15		4				9			5	34
50倍を越え 100倍以下			1						9				10
100倍を越え 150倍以下			1		1				3				5
150倍を越え 200倍以下									5				5
200倍を越え 1000倍以下			2								1		3
1000倍を越えるもの			6								1		7
合 計	2	6	34	2	24		16	2	35		2	25	148

9 危険物関係許可・検査処理状況

(H22年度)

種 別 施設区分	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所				計	
		屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油	販 売	移 送		一 般
設 置 許 可									1				1
変 更 許 可	1		2						2				5
完 成 検 査	2		8						3			1	14
水 圧 ・ 水 張 検 査													
仮使用（貯蔵取扱）承認	1		1						2				4
計	4		11						8			1	24

10 危険物施設の立入検査状況

(H22年度)

施 設 別	実 施 施 設 数	立 入 検 査 延 回 数
製 造 所	1	1
屋 内 貯 蔵 所	6	6
屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	26	26
屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	2	2
地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	17	17
簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所		
移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	16	16
屋 外 貯 蔵 所	2	2
給 油 取 扱 所	34	34
販 売 取 扱 所		
移 送 取 扱 所	2	2
一 般 取 扱 所	19	19
計	125	125
少量危険物貯蔵取扱所	30	30

## 11 液化石油ガス等の保安指導状況

### (1) 届出の義務

消防法第9条の3では、火災予防又は消火活動に重大な支障を生ずるおそれのある圧縮アセチレンガス、液化石油ガスその他の物質（毒物、劇物等）を政令で指定し、一定以上の貯蔵又は取扱いをする場合、消防長等に届け出ることを義務づけている。

### (2) 消防機関の対応

この届出に対し、消防機関は先ず、火災予防措置として査察指導を行い、火災発生の未然防止を図り、次に万一の火災発生時において、これらの物質から発生する特異かつ重大な危険が付近住民に波及することを防止し、かつ消火活動にあたる消防職員に対する危害を防止するための対策に役立てることを狙いとする。

### (3) 液化石油ガス施設等の現況

(H23.4.1現在)

物 質	数 量	貯蔵・取扱施設数	備 考
液 化 石 油 ガ ス	3 0 0 kg 以上	2 2 9	
圧縮アセチレンガス	4 0 kg 以上	2	
シアン化ナトリウム	3 0 kg 以上	1	毒 物
硫 酸	2 0 0 kg 以上	2	劇 物

## 12 串木野国家石油備蓄基地の概要及び現況

### (1) 概 要

位 置：いちき串木野市西薩町1番地及び北部丘陵地（荒川・下名地区）  
備 蓄 方 式：常圧貯蔵横穴水封固定水床式  
面 積：貯油施設地区26ha（投影）地上施設地区5ha  
貯蔵許可数量：1,740,874.4KL（約175万KL）  
類 別・品 名：第4類 第1石油類（原油）  
地 下 貯 油 槽（岩盤タンクに係る屋外タンク貯蔵所）  
形 状：卵型（高さ22m × 幅18m × 長さ555m）10基  
水封トンネル：3本  
地上荷役施設：操油設備・用役設備・電気計装設備・公害防止設備・安全防災設備・管理施設等  
海上荷役設備：10万DWT級1点係留浮標式係留設備1基・海底原油配管2,300m  
危険物の移送量：受け入れ時 120,000KL/日  
払い出し時 96,000KL/日  
他の危険物施設：屋外タンク貯蔵所 7 地下タンク貯蔵所 1  
屋内貯蔵所 1 一般取扱所 6 移送取扱所 2  
石油コンビナート等特別防災区域指定：平成4年8月28日  
串木野基地起工：昭和62年3月31日  
備蓄原油総量：約168万KL



### (2) 現 況

#### ア. 労働無災害時間記録を継続中

平成23年3月31日 231.8万時間

#### イ. 平成22年度 消防立入検査

下記の定期消防立入検査において書類審査、現地審査 共、問題のない事が確認されました。

- ・ 特定防災区域内巡回パトロール実施（5/20、8/17、11/18、2/21）
- ・ 岩盤関係定期消防立入検査 実施（4/23、7/23、10/22、1/19）
- ・ 危険物施設年次立入検査 実施（2/9、2/23）

#### ウ. 鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練の実施

鹿児島県石油コンビナート等防災計画に基づき、平成22年10月5日（火）総合防災訓練を実施しました。

### 訓練参加者

鹿児島県、いちき串木野市、いちき串木野市消防本部、いちき串木野警察署など 12 機関。  
消防車、パトカーなど計 20 台。

総勢 161 名。

### 訓練想定

- ①薩摩地方を震源とする震度 5 強の地震が発生し、スロップタンク TK-122 受入れ配管フランジから油が漏洩し、漏れた油に何らかの原因で着火、火災が発生。
- ②TK-101 堅坑上部室内でガスが発生し、事業所員 1 名がガス中毒及び転倒時に足を骨折。  
(地上部で TK-101 堅坑上部室内を想定した救出・救護訓練)
- ③鹿児島県防災本部からの緊急要請により、上空偵察中の県消防・防災ヘリコプターは負傷者 1 名を収容し、第三次医療機関への緊急搬送を行う。

### 訓練項目

- ①緊急通報訓練②自衛防災本部設置訓練③現場指揮本部設置訓練④救出・救護訓練⑤土嚢構築訓練⑥被害情報収集・伝達訓練⑦救急搬送訓練⑧初期消火訓練⑨消火・延焼防止訓練

訓練時間 10:00～11:30

### 【訓練風景】



土嚢構築中



自衛救助隊負傷者救出



自衛救助隊→救急隊へ



自衛消防班放水



一斉放水



講評する田畑いちき串木野市長



### 13 消防協力団体の結成状況（H23. 4. 1現在）

#### (1) いちき串木野市幼少年婦人防火委員会

◎ 結成年月日 昭和55年 5月 1日

◎ 目的

当委員会は、防火・防災に対する地域住民の理解と協力を得るため、その推進の中核となるクラブ等の結成、促進並びに育成強化を図ることを目的とする。

(委員名簿)

役 職 名	氏 名	所 属
会 長	池 田 豊	いちき串木野市消防長
委員 (監事)	岡 田 正 治	いちき串木野市消防団長
委 員	中 村 孝 子	須賀婦人消防協力隊隊長
〃	塩 屋 か よ 子	照島地区婦人防火クラブ会長
〃	岩 下 裕 子	土川地区婦人防火クラブ会長
〃	岩 下 尚 功	羽島保育園・幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	神 村 勲	神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ会長
〃	井 上 恒 夫	願船寺保育園幼年消防クラブ会長
〃	森 藤 友 久	市来幼稚園幼年消防クラブ会長
事 務 局	石 原 聖	いちき串木野市消防本部 予防係主査

#### (2) 幼年消防クラブ

◎ 目的

幼年期に消防の研修を行い、火に対する正しい認識を身につけさせ、園及び各家庭の火災の予防を図るとともに、将来、人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地をかん養することを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
羽島保育園・幼稚園幼年消防クラブ	昭和60年5月20日	107名
会 長 岩下尚功	副会長 大神光恵	
市来幼稚園幼年消防クラブ	昭和62年5月23日	75名
会 長 森藤友久	副会長 村岡由一	
神村学園附属幼稚園幼年消防クラブ	平成2年7月16日	124名
会 長 神村 勲	副会長 橋口富美子	
願船寺保育園幼年消防クラブ	平成6年2月19日	91名
会 長 井上恒夫	副会長 井上弘顕	

#### (3) 婦人防火クラブ

◎ 目的

家庭における火災の防止及び地域ぐるみの自主防災体制の確立が図られるよう初期消火等の訓練及び防火研修などを実施し、防火安全体制の確立を図ることを目的とする。

名 称	結 成 年 月 日	人 員
須賀婦人消防協力隊	昭和30年11月29日	23名
隊 長 中村孝子	副隊長 通山美津江	
照島地区婦人防火クラブ	昭和52年7月23日	1,335名
会 長 塩屋かよ子	副会長 奥みちよ	
土川地区婦人防火クラブ	昭和58年9月10日	24名
会 長 岩下裕子	副会長 松崎ゆり子	

#### (4) 防火管理協会

##### ◎ 目的及び事業

災害予防対策の研究及び消防思想の普及発達に寄与することを目的とし、併せて会員相互の連絡親睦を厚くし、次の事業を行うものとする。

- ア 消防思想の普及高揚及び災害発生時における会員相互の応援業務
- イ 防火消防諸施設の視察研究
- ウ 自衛消防の強化促進
- エ 各種災害の予防対策の研究
- オ 消火器の維持管理の指導及び検査
- カ 優良事業所及び会員の表彰に関する事。
- キ 会員の弔慰見舞に関する事。
- ク その他本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市防火管理協会	平成 18 年 5 月 24 日	1 1 9
(H23.5 現在) 会 長 播磨 誠 副会長 溜池一孝・吉尾逸平		

#### (5) 危険物安全協会

##### ◎ 目的及び事業

危険物保安対策の研究及び消防思想の普及宣伝並びに防火施設の拡充強化に寄与し、会員相互の融和親睦を図ることを目的として、次の事業を行うものとする。

- ア 消防関係、諸法規の周知徹底に関する事。
- イ 消防思想の普及宣伝に関する事。
- ウ 危険物及び高圧ガスに対する防火及び消防諸施設の視察並びに研究に関する事。
- エ 危険物取扱者の研修に関する事。
- オ 優良事業所及び優良従業員の表彰に関する事。
- カ 会員の弔慰に関する事。
- キ その他、本会の目的達成上必要と認めた事業

名 称	発 会 年 月 日	加 入 事 業 所 数
いちき串木野市危険物安全協会	平成 18 年 5 月 26 日	8 9
(H23.5 現在) 会 長 上夷慶克 副会長 寺田洋孝・迫 直・中屋文雄		

## IV 火災・救急・救助

火災件数	.....	9件
損害額	.....	8,274千円
死者	.....	0人
負傷者	.....	2人
救急件数	.....	1,295件
搬送人員	.....	1,242人
救助件数	.....	17件
救助人員	.....	11人



## 2 火災統計

(1) 平成22年中の火災状況 (いちき串木野市・鹿児島県・全国)

区 分	いちき串木野市	鹿児島県 (概数)	全 国 (概数)
火 災 件 数	9	761	46,574
建 物	4	448	27,106
林 野	2	24	1,387
車 両		65	5,035
船 舶		2	85
航 空 機		1	3
そ の 他	3	221	12,958
焼 損 棟 数	6	693	37,224
建 物 焼 損 床 面 積 ( m <sup>2</sup> )	439	26,082	1,187,242
建 物 焼 損 表 面 積 ( m <sup>2</sup> )	25	2,124	133,793
林 野 焼 損 面 積 ( a )	1	190	75,532
り 災 世 帯 数	4	488	23,807
り 災 人 員	5	977	57,437
死 者		35	1,734
負 傷 者	2	115	7,282
損 害 額 ( 千 円 )	8,274	1,184,749	114,262,672
建 物	8,274	1,065,698	
林 野		717	
車 両		21,731	
船 舶		1,642	
航 空 機		77,000	
そ の 他		13,882	
爆 発		4,079	

(2) 過去5年間の年別火災概要

区分 年	火災件数					焼損棟数					焼損面積			死傷者		り災世帯数			り 災害人員	損害額 (千円)		
	建物	林野	車両	船舶	その他	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	建物床面積 <sup>2</sup> m	建物表面積 <sup>2</sup> m	林野	死者	負傷者	全損	半損	小損			計	
平成18年	8	4	2		9	23	1	1	6	8	843	444		1				3	3	7	60,529	
平成19年	6	4	1		13	24	3	1	1	7	12	328		5	1	3	2		5	7	20	18,921
平成20年	3	1	3		8	15	1		2	3	52		7			1			1	2	1,838	
平成21年	7	1	3		11	22	7	2	2	3	14	731	41	12	2	4	3		5	8	16	64,592
平成22年	4	2			3	9	1			3	4	439	25	1	2	1		3	4	5	8,274	
合計	28	12	9	0	44	93	12	4	6	19	41	2,393	510	25	4	9	7	0	16	23	50	154,154

(3) 過去5年間の原因別火災発生件数

区分 年	たばこ	こんろ	風呂かまど	炉	焼却炉	ストーブ	電気機器	電気装置	電灯・電話等配線	配線器具	交通機関内配線	火あそび	たき火	溶接機・切断機	灯火	火入れ	放火	放火の疑い	その他	内燃機関	不明・調査中	計
平成18年		1						1	2				10	1				1	5		2	23
平成19年	2	2							1				13			1	1		1		3	24
平成20年	3		1				1			1			6						2		1	15
平成21年		1	1			1		1	1				9			1	1			1	5	22
平成22年		1											1			2		1			4	9
合計	5	5	2	0	0	1	1	2	4	1	0	0	39	1	0	4	2	2	8	1	15	93

(4) 過去5年間の月別火災発生件数

年 月	年					計
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
1	4	1	1	1		7
2	3	2	5	1		11
3	1	2	4	1		8
4	1	1				2
5		3	1	2	1	7
6	1	3		2	1	7
7	5	1	1	3	1	11
8		3	2	1	2	8
9	2	4		5	1	12
10	4	1	1	2	1	9
11	1			2	2	5
12	1	3		2		6
計	23	24	15	22	9	93

(5) 過去5年間の曜日別火災発生件数

年 月	年					計
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	
日	2	7	4	3	1	17
月	6	3	1	6		16
火	3	1	4	2		10
水	1	4	4	1	2	12
木	4	4	1	6	3	18
金	3	3	1	3	2	12
土	4	1		1	1	7
不明		1				1
計	23	24	15	22	9	93

## (6) 過去5年間の時刻別火災発生件数

年 時刻	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	計
0～1	2					2
1～2						0
2～3				1		1
3～4	1			2		3
4～5	1					1
5～6	2		1			3
6～7						0
7～8			1	1		2
8～9			1			1
9～10		4	1	1		6
10～11	1	3	2		1	7
11～12	3	1				4
12～13	2	1		1		4
13～14	1	2	1	1		5
14～15	4	4	2	3		13
15～16		3		3		6
16～17	2	1	2	4	1	10
17～18		2	1	1	3	7
18～19		1	1		1	3
19～20	4	1	1		2	8
20～21				2		2
21～22						0
22～23						0
23～24				1	1	2
不明		1	1	1		3
計	23	24	15	22	9	93

## (7) 火災発生時の気象状況

( H 2 2 年 中 )

気象状況		月												計	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
天 気	快 晴														0
	晴					1	1	1	1	1	1	2			8
	曇								1						1
	雨														0
	雪														0
	不明														0
風 速 m/s	無風状態														0
	1～2											1			1
	2～3							1				1			2
	3～4								1						1
	4～5						1				1				2
	5～6					1									1
	6～7									1					1
	7～8								1						1
	8～9														0
	9～10														0
	不明														0
風 向	北										1				1
	北北東														0
	北東											1			1
	東北東								1			1			2
	東														0
	東南東														0
	南東														0
	南南東					1									1
	南														0
	南南西														0
	南西														0
	西南西									1					1
	西						1	1		1					3
	西北西														0
北西														0	
北北西														0	
不明														0	
湿 度 %	10～20														0
	20～30														0
	30～40										1				1
	40～50														0
	50～60														0
	60～70					1	1		1			1			4
	70～80							1		1		1			3
	80～90								1						1
	90～100														0
	不明														0

### 3 いちき串木野市における大火記録

出火年月日	種別	対象物等	棟数	焼失面積	損害額 (千円)	原因	死傷者数
昭 29. 7. 12	建 物	高 等 学 校	1	587 m <sup>2</sup>	6,362	不 明	
30. 2. 12	〃	島平同時2箇所	21	820 m <sup>2</sup>	5,322	不 明	負 傷 1
33. 6. 21	〃	映 画 館	8	872 m <sup>2</sup>	8,798	フィルム引火	
34. 10. 21	〃	製 材 所	10	564 m <sup>2</sup>	6,116	不 明	
39. 12. 4	〃	造 船 所	7	1,752 m <sup>2</sup>	25,401	不 明	
41. 6. 16	〃	羽 島 浜 大 火	135	7,321 m <sup>2</sup>	143,293	電気アイロン	
41. 12. 4	〃	曙 町 内 店 舗	13	1,116 m <sup>2</sup>	33,065	た ば こ	
42. 3. 25	〃	市 役 所	9	396 m <sup>2</sup>	6,578	不 明	負 傷 3
44. 2. 22	〃	羽 島 萩 元	6	375 m <sup>2</sup>	8,160	不 明	死 者 1
45. 2. 4	林 野	西 岳		5.05ha	1,502	た ば こ	負 傷 1
48. 11. 25	〃	萬 福		3ha	3,500	不 明	
49. 3. 2	〃	深 田		4.5ha	1,619	マ ッ チ	
56. 5. 13	住 宅	照 島 下	7	319 m <sup>2</sup>	10,997	た ば こ	死 者 1
56. 12. 17	浴 場	浦 和 町	5	377 m <sup>2</sup>	16,809	風呂・かまど	
57. 10. 24	住 宅	浦 和 町	8	213 m <sup>2</sup>	17,686	天ぷら鍋	負 傷 2
59. 8. 8	〃	須 賀	5	347 m <sup>2</sup>	9,295	不 明	負 傷 1
61. 12. 4	住 宅	土 川	6	406 m <sup>2</sup>	12,122	風呂・かまど	負 傷 1
平 1. 3. 21	工 場	岡下造船鉄工	2	699 m <sup>2</sup>	51,181	不 明	
2. 3. 12	住 宅	羽 島 浜 田 町	9	335 m <sup>2</sup>	25,563	天ぷら鍋	
6. 6. 1	〃	春 日 町	5	240 m <sup>2</sup>	27,931	不 明	負 傷 1
10. 2. 28	〃	北 浜 町	7	279 m <sup>2</sup>	11,855	ストーブ	負 傷 1
10. 12. 10	〃	住 吉 町	7	606 m <sup>2</sup>	31,525	取 灰	負 傷 1
18. 1. 28	工 場	薩洲濱田屋伝兵衛	1	830 m <sup>2</sup>	58,576	照明器具	
21. 11. 15	住 宅	羽 島 横 須	6	444 m <sup>2</sup>	52,620	電灯・電話等の 配 線	負 傷 3

## 4 救急業務統計

### (1) 救急業務の沿革

- S43.2 救急車1台(ニッサン・セドリック)を購入し、救急業務を任意で開始
- S44.9 消防法施行令の一部改正により本市の救急業務実施が義務化
- S44.12 市来町、東市来町と救急業務応援協定を締結 S57.9.30 破棄 (S57.10.日置地区消防組合発足に伴い、破棄)
- S45.4 川内市と救急業務相互応援協定を締結 (S56.5.破棄)
- S45.5 薩摩郡里村、鹿島村、上甌村、下甌村、樋脇町と救急業務応援協定を締結
- S48.2 S57.3.31.破棄 (S56.4.川内地区消防組合発足に伴い、破棄)
- S48.3 生命保険協会から救急車1台(ニッサン・シベリアン)の寄贈を受け救急車2台となる。
- S52.9 日本消防協会から救急車1台(ニッサン・キャバンの)の寄贈を受く。
- S52.9 S43.2.購入の救急車(ニッサン・セドリック)を大隅曾於地区消防組合消防本部へ譲渡
- S56.2 日本自動車工業会から救急車1台(ニッサン・キャバンのハイルフ)の寄贈を受く。
- S56.2 S48.3.生命保険協会からの寄贈車を廃車
- S56.5 川内地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結 (H17.11.破棄)
- S57.10 日置地区消防組合と「消防及び救急業務応援協定」を締結 (H17.12.破棄)
- H元.2 救急車1台(トヨタ2000cc)を購入し、S52.9.日本消防協会からの寄贈車を廃車
- H2.1 コーアガス鹿児島(株)から救急車1台(トヨタ2000cc)の寄贈を受く。
- H2.3 S56.2.日本自動車工業会からの寄贈車を運搬車に改造し、照島分団別府班に配置替え。(H7.2.廃車)
- H9.4 救急救命士第1号誕生
- H10.4 救急救命士2名となる。
- H11.4 救急救命士3名となる。
- H12.3 串木野市医師会と「救急救命士に対する医師の指示に関する協定」を締結
- H12.4 救急救命士4名となる。
- H12.11 高規格救急自動車(ニッサン・パラメック3300cc)及び高度救命処置用資器材を購入
- H13.1 高規格救急自動車等による高度救急業務を開始
- H13.2 救急車1台(H元.2)を廃車
- H13.4 救急救命士5名となる。
- H13.12 救急車1台(トヨタ3400cc)を購入し、H2.1.コーアガス鹿児島(株)からの寄贈車を廃車
- H14.4 救急救命士6名となる。
- H15.4 救急救命士7名となる。
- H16.4 救急救命士8名となる。
- H17.3 国土交通省鹿児島国道事務所等と「南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定」を締結
- H17.10 国分地区消防組合から救急車1台(トヨタ2400cc)を譲り受ける。
- H17.10 市来町との合併に伴い、現有救急車1台(トヨタ3400cc)をいちき分遣所に配置
- H17.11 薩摩川内市と「消防及び救急業務相互応援協定」を締結
- H17.12 鹿児島市消防局及び日置市消防本部との「南九州西回り自動車道における消防相互応援協定」を締結
- H17.12 日置市と「消防・救急業務相互応援協定」を締結
- H18.12 高規格救急自動車1台(ニッサン・パラメック3500cc)を購入し、いちき分遣所に配置
- H18.12 H17.10国分地区消防組合(現霧島市消防局)から譲り受けた救急車を廃車
- H20.5 救急救命士9名となる。
- H22.4 救急救命士10名となる。

## (2) 救急業務取扱状況

(H22年中)

事故種別 区分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他	
出場件数				2	97	16	5	173	7	15	605	371			4	1295
不搬送件数				1	10	1		14	2	6	33	1			3	71
搬送人員				1	102	15	6	159	5	9	574	370			1	1242
性別	男			1	55	13	4	72	2	3	312	194			1	657
	女				47	2	2	87	3	6	262	176				585

## (3) 傷病程度別搬送状況

(H22年中)

事故種別 傷病程度		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
死亡					1	1		1		1	17		21
重症					5	6	1	36		3	102	159	312
中等症				1	24	4	3	57	1	4	257	175	526
軽症					72	4	2	65	4	1	198	37	383
その他													
計				1	102	15	6	159	5	9	574	371	1242

(4) 診療科目別搬送状況 (H22年中)

診療科目	搬送人員
内科一般	25
循環器科	133
消化器科	114
呼吸器科	108
神経内科	44
小児科	33
新生物	37
外科一般	33
整形外科	200
形成外科	1
脳神経外科	262
脳卒中	165
頭部外傷	97
泌尿器科	32
皮膚科	5
熱傷	4
その他	1
産婦人科	6
耳鼻咽喉科	4
眼科	1
精神科	5
服毒・中毒	18
その他	181
合計	1242

(5) 搬送別状況 (H22年中)

搬送種別	搬送人員
条理搬送	528
依頼搬送	714
合計	1,242

(6) 覚知別出場状況 (H22年中)

覚知別	出場件数
専用(119)	794
加入電話	477
庁内電話	0
かけつけ	5
現認	2
消防無線	12
その他	5
合計	1,295

(7) 居住地別搬送状況 (H22年中)

居住地別	搬送人員
市内居住者	1,040
市外居住者	202
その他	0
合計	1,242

(8) 救急救命処置実施状況 (H22年中)

救急救命処置	男性	女性
気道確保	8	5
静脈路確保	5	7
薬剤投与	3	4
除細動	5	4
合計	21	20

## (9) 月別救急出場状況及び搬送人員の状況

(H22年中)

月別	事故種別 区分	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計	不搬送
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他		
1	件数				10	2		9	1		69	45			2	138	7
	人員				11	2		9	1		65	45				133	
2	件数				14		1	20			40	33				108	4
	人員				15		1	18			38	33				105	
3	件数				12	3		12		1	54	33				115	5
	人員				13	3		12		1	50	33				112	
4	件数				3	3		16			55	29			1	107	4
	人員				3	2		15			53	29			1	103	
5	件数				9	2		11	1	2	50	33				108	7
	人員				8	2		11	1	2	44	33				101	
6	件数			1	9			13		1	43	35				102	6
	人員				6			13		1	41	35				96	
7	件数				9	1	1	15	2	2	39	35			1	105	7
	人員				11	1	1	14	2	1	35	35				100	
8	件数				7	2		14	2	2	51	27				105	5
	人員				6	2		13	1	1	50	27				100	
9	件数				6	1	1	10		4	52	26				100	5
	人員				6	1	2	10		2	51	26				98	
10	件数				5		1	15			35	23				79	4
	人員				4		1	15			32	23				75	
11	件数				7	2	1	16	1	1	55	21				104	7
	人員				11	2	1	11			56	21				102	
12	件数			1	6			22		2	62	31				124	10
	人員			1	8			18		1	59	30				117	
合計	出場数			2	97	16	5	173	7	15	605	371			4	1,295	71
	搬送人員			1	102	15	6	159	5	9	574	370			1	1,242	

## (10) 曜日別救急出場状況

(H22年中)

曜日	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
											転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
日				14	2		25	3		90	34			2	170
月				23	4		23		3	71	68			1	193
火				15	4		30	1	6	83	70			1	210
水				12	1	2	23		2	86	46				172
木			1	10	1		20	3	2	90	48				175
金				11	2		26		2	98	62				201
土			1	12	2	3	26			87	43				174
合計			2	97	16	5	173	7	15	605	371			4	1,295

## (11) 現場到着所要時間別出場件数

(H22年中)

現場到着 事故種別	現場到着所要時間					計	現場到着平均 所要時間(分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	113	214	201	75	2	605	5.3
交通事故	17	35	35	7	3	97	5.7
一般負傷	33	57	67	15	1	173	5.0
その他	63	213	122	21	1	420	4.4
合計	226	519	425	118	7	1,295	5.1

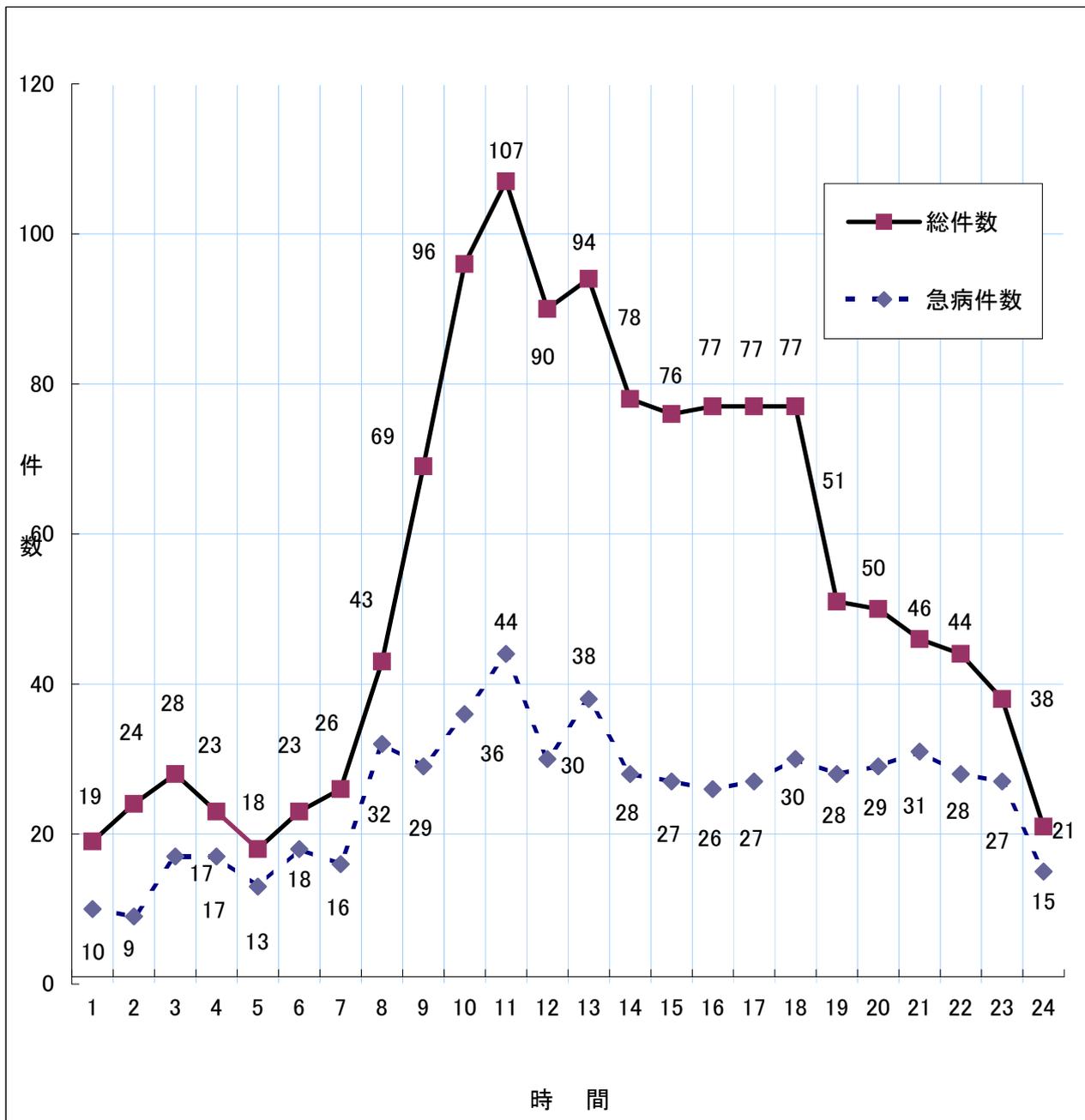
## (12) 収容所要時間別搬送人員

(H22年中)

収容所要時間 事故種別	収容所要時間					計	収容平均 所要時間(分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上		
急病	6	121	253	179	15	574	27.8
交通事故		30	41	31		102	26.7
一般負傷		42	67	48	2	159	27.0
その他	4	140	78	173	12	407	30.6
合計	10	333	439	431	29	1,242	28.0

(13) 時間別出場状況 (総件数及び急病件数)

(H 2 2 年中)

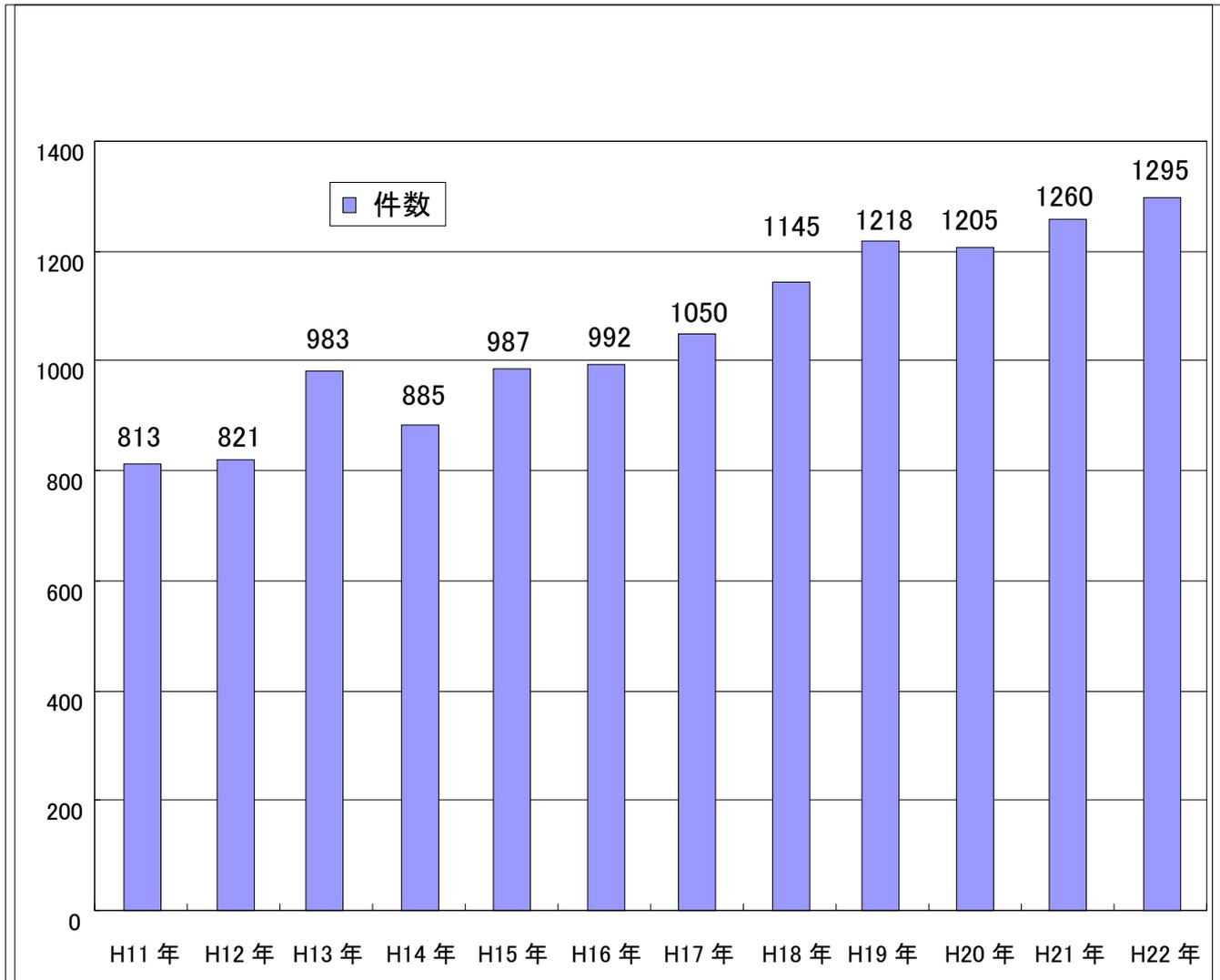


(14) 市別搬送状況 (搬送先)

(H 2 2 年中)

搬送先 区分	いちき串木野市	鹿児島市	薩摩川内市	日置市	その他	計
搬送人員	900	150	122	69	1	1,242
比率 (%)	72.46	12.08	9.82	5.56	0.08	100

(15) 救急出場件数の推移



(16) 過去5年間の救急出場状況

年別	事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
平成18年				5	92	8	7	121	3	7	559	305			38	1,145
平成19年		1		4	99	12	14	132	1	15	591	317			32	1,218
平成20年			1	1	96	10	5	146	1	9	551	355			30	1,205
平成21年		2			80	10	7	156	7	20	574	372			32	1,260
平成22年				2	97	16	5	173	7	15	605	371			4	1,295

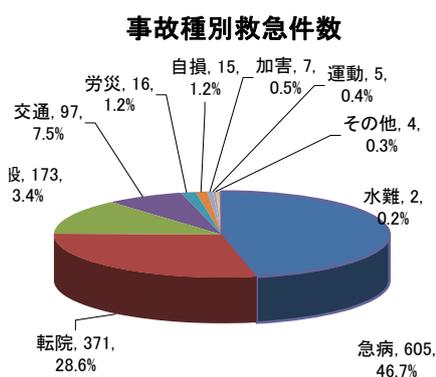
(17) 年齢別搬送人員状況

(H 2 2 年中)

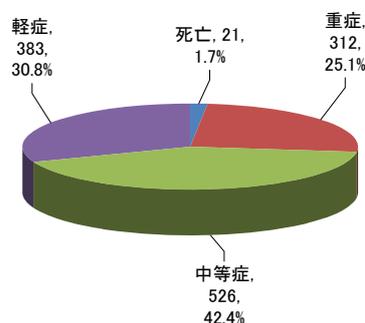
年齢別	事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				合計
												転院搬送	医師搬送	資器材等輸送	その他	
0～9					3			6			33	4				46
10～19					14		4	6		2	22	6				54
20～29					10	3		4		1	18	8				44
30～39					11	2	1	4	2	1	22	10				53
40～49					3	1		4	1	1	31	11				52
50～59				1	10	7	1	7	1	1	44	20				92
60～69					12	1		21	1	1	71	44				151
70～79					32	1		44		1	122	111			1	312
80～89					7			42		1	166	130				346
90～								21			45	26				92
計		0	0	1	102	15	6	159	5	9	574	370	0	0	1	1,242

(18) 各比率

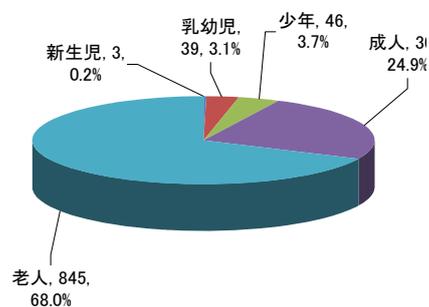
(H 2 2 年中)



**傷病程度別搬送人員**



**年齢区分別搬送人員**



※ 救急出場件数 1,295件  
 ※ 搬送人員 1,242人

※ 年齢区分  
 新生児 (生後28日以内)  
 乳幼児 (29日以上7歳未)  
 少年 (7歳以上18歳未)  
 成人 (18歳以上65歳満)  
 老人 (65歳以上)

## 5 救助業務統計

### (1) 救助出動状況

(H22年中)

	月日	事故種別	災害発生場所	出動車両	出動人員	活動車両	活動人員	救助人員
1	1/4	交通事故	南九州西回り自動車道上(都トンネル内上り車線50m付近)	4	11	1	11	
2	1/5	建物事故	福留工業(株)敷地内	3	8	1	4	1
3	1/25	交通事故	大型農免道路上川上大橋より串木野側約660m先	4	12	4	12	1
4	2/4	交通事故	サンクス市来店前路上	3	8	3	8	1
5	3/21	交通事故	西回り自動車道(金山トンネル内下り車線600m付近)	3	7	3	7	
6	4/23	交通事故	下名5499番地前道路上	2	6	2	6	1
7	5/28	その他	冠岳橋北西側山頂付近	3	8	3	8	1
8	6/10	水難	串木野漁港製氷工場前岸壁	3	8	3	8	1
9	7/13	その他	冠岳久木野公民館西側山中	3	8	3	8	1
10	8/9	その他	中組珍ノ山住宅	2	5	2	5	1
11	9/12	交通事故	御倉町テーラーコヤ前交差点	3	9	3	9	1
12	9/30	交通事故	京町内科脳神経クリニック前交差点	4	9	4	9	1
13	10/11	その他	小瀬港岸壁	2	6	2	6	1
14	11/5	交通事故	南九州西回り自動車道上(川内道路都トンネル下り側出口付近)	3	9			
15	11/7	その他	羽島漁港外港	3	9			
16	12/4	水難	西薩町南薩砂利前	4	9			
17	12/23	交通事故	大原交差点内	3	8			
合 計				52	140	34	101	11

### (2) 過去5年間の救助出動状況

区分		年				
		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
出動件数		9	13	12	10	17
活動件数		4	8	8	4	11
救助人員		4	12	12	4	11
事故種別	火災					
	交通事故	7	8	10	8	9
	水難事故		3	2		2
	自然災害					
	機械	1				
	建物					1
	ガス・酸欠					
	爆発					
	その他	1	2		2	5

## 6 応援協定等の締結状況

(H23.4.1 現在)

締結年月日	協 定 先 名	協 定 の 種 類
S36.9.25	いちき串木野警察署	災害救助に関する協定
S45.6.15	串木野海上保安部	船舶火災の消火に関する業務協定 H6.8.19 一部改正
S59.4.1	指宿地区消防組合	消防無線使用時の混信に関する協定
H9.9.24	日本地下石油備蓄(株)串木野事業所	串木野市と日本地下石油備蓄(株)串木野事業所との応援協定
H10.4.1	薩摩川内市消防局	携帯電話等からの119番通報転送等に関する協定
H10.6.26	県内各市町村及び各消防本部	鹿児島県消防・防災ヘリコプター応援協定
H12.3.1	いちき串木野市医師会	救急救命士に対する医師の指示に関する協定
H17.11.18	薩摩川内市	消防及び救急業務相互応援協定
H17.12.12	日置市	消防・救急業務相互応援協定
H18.10.25	県内市町村及び消防の一部事務組合	鹿児島県消防相互応援協定
H19.3.1	国土交通省鹿児島国道事務所 県警察本部交通部高速道路交通警察隊 薩摩川内市消防局	南九州西回り自動車道における緊急時の通報並びに出動に関する協定
H19.3.2	鹿児島市 日置市 薩摩川内市	南九州西回り自動車道における消防相互応援協定

## V 機 械 ・ 水 利

消 防 車 両	消防本部（署）・・・・・・・・・・	14 台
	消防団・・・・・・・・・・	19 台
消 火 栓	・・・・・・・・・・・・・・・・	5 3 6 基
防 火 水 槽	・・・・・・・・・・・・・・・・	2 9 5 基
消 防 無 線	基 地 局 ・・・・・・・・・・	2 基
	固 定 局 ・・・・・・・・・・	2 基
	陸上移動局（車載）・・・・・・・・	3 2 基
	陸上移動局（携帯）・・・・・・・・	4 0 基

# 1 基準消防力と現有消防力との比較

## (1) 消防本部（署）

(H23. 4. 1現在)

種 別 \ 区 分	基 準	現 有	充足率 (%)	過・不足 (▲)
署所の数	2	2	100	0
人員	90	48	53.3	▲ 42
消防ポンプ車	3	3	100	0
はしご車	1	1	100	0
化学車	1	1	100	0
救急車	2	2	100	0
救助工作車	1	1	100	0
非常用消防自動車	1	1	100	0
非常用救急自動車	1	1	100	0

## (2) 消防団

(H23. 4. 1現在)

種 別 \ 区 分		基 準	現 有	充足率 (%)	過・不足 (▲)
市街地	動力消防ポンプ	8 口	消防ポンプ車 3 台 6 口	112.5	1 口
			小型動力ポンプ 3 台 3 口		
準市街地	動力消防ポンプ	20 口	消防ポンプ車 5 台 10 口	80	▲ 4 口
			小型動力ポンプ 6 台 6 口		
その他	動力消防ポンプ	13 口	消防ポンプ車 4 台 8 口	100	0 口
			小型動力ポンプ 5 台 5 口		
人 員		548 人	275 人	50.5	▲ 273 人

## (3) 消防職・団員と市民との割合

(H23. 4. 1現在)

種 別 \ 区 分	消 防 職 員 ( 1 人 当 り )	消 防 団 員 ( 1 人 当 り )
世 帯 ( 13,415 )	279.5	48.8
人 口 ( 30,778 )	641.2	111.9

## 2 消防機械器具及び水利状況

### (1) 消防署の消防車両状況

(H23. 4. 1現在)

種 別	車 種	車 名	車両番号	登録年月日	ポンプ性能	排気量	定 員	総重量	長 さ	幅	高 さ	備 考
					(l/分)	(cc)	(人)	(kg)	(cm)	(cm)	(cm)	
水槽付消防ポンプ自動車	日 野	署 タ ン ク 車	鹿児島831 ふ 119	H23.2	A-2吉谷	6,400	6	10,120	735	227	290	ディーゼル車 石油交付金事業
水槽付消防ポンプ自動車	日 野	いちきタンク車	鹿児島88 す 4843	H6.7.15	A-1吉谷	7,410	6	7,940	683	222	270	ディーゼル車 寄贈車
消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	い な ず ま 号	鹿児島88 す 7312	H8.12.26	A-2日本造機 2,310	4,560	6	4,140	529	188	241	ディーゼル車
消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	銀 河 号	鹿児島800 さ 9964	H19.3.23	A-2森田	4,000	6	5,370	575	189	280	ディーゼル車 石油交付金事業
梯子付消防自動車	日 野	は し ご 車	鹿児島88 ゆ 754	H2.10.16		7,410	6	12,660	995	249	340	ディーゼル車
化学消防自動車	三 菱	化 学 車	鹿児島88 ゆ 1343	H4.12.18	A-2日機 1,600	16,030	7	14,925	830	249	296	ディーゼル車
救 助 工 作 車	三 菱	救 助 工 作 車	鹿児島800 は 1305	H23.2		7,540	6	8,150	768	221	334	ディーゼル車
指 揮 広 報 車	ニッサン	さ の さ 号	鹿児島88 に 3465	H9.10.28		1,990	8	1,980	435	169	199	ガソリン車 寄贈車
高規格救急車	ニッサン	救急1号車	鹿児島800 さ 2323	H12.11.16		3,270	7	3,325	572	190	248	ガソリン車 石油交付金事業
救 急 車	トヨタ	救急2号車	鹿児島800 さ 3794	H13.12.6		3,370	7	2,705	544	180	242	ガソリン車
高規格救急車	ニッサン	救急いちき1号車	鹿児島800 さ 9643	H18.12.14		3,490	7	3,275	575	190	246	ガソリン車 石油交付金事業
運 搬 車	ホ ン ダ	運 搬 車	鹿児島80 あ 1331	H13.3.29		650	2	1,440	339	147	193	ガソリン車 (県)貸与品原子力 防災資機材
軽 積 載 車	ニッサン	防 災 活 動 車	鹿児島880 あ 743	H22.1.28		650	2(4)	1460	339	147	195	ガソリン車 寄贈車
軽 積 載 車	三 菱	いちきミニ車	鹿児島80 あ 1277	H12.9.13	B-3小型動力 ポンプを積載	650	2	1150	339	147	197	ガソリン車

2 消防機械器具及び水利状況

(2) 消防団の消防車両及び小型ポンプの状況 ア 串木野地域

(H23.4.1現在)

分団名	種 別	車 種	車 名	車 両 番 号	登 録 年 月 日	ポ ン プ 性 能	排 気 量	定 員	総 重 量	長 さ	幅	高 さ	備 考
						(ℓ/分)	(cc)	(人)	(kg)	(cm)	(cm)	(cm)	
団本部	指 揮 連 絡 車	ト ヨ タ	団 本 部 車	鹿 児 島 88 す 6457	H8.3.18		2,180	8	2,060	469	169	210	ディーゼル車
中央	消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	た つ ま き 号	鹿 児 島 800 さ 8954	H18.3.20	A-2 モ リ タ	4,001	10	4,530	571	188	246	ディーゼル車 石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ 積 載 車	い す ず	す い せ い 号	鹿 児 島 88 す 3250	H4.8.26		2,490	8	2,540	445	172	250	ディーゼル車 防災用交付車両
	小 型 動 力 ポ ン プ				H19.11.30	B-3 ト ー ハ ッ 1,130	526						石油交付金事業
本浦	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	あ さ か ぜ 号	鹿 児 島 88 す 3357	H4.10.13	A-2 日 機 2,310	4,210	10	4,070	522	189	245	ディーゼル車
	小 型 動 力 ポ ン プ				H17.3.17	B-3(ラビット) 1,400	635						石油交付金事業
照島	消 防 ポ ン プ 自 動 車	日 野	照 月 号	鹿 児 島 800 さ 8956	H18.3.20	A-2 モ リ タ	4,001	10	4,530	567	188	246	ディーゼル車 石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ 積 載 車	ト ヨ タ	く ろ せ 号	鹿 児 島 88 す 5286	H6.12.16		1,990	9	2,665	499	167	250	ガソリン車
	小 型 動 力 ポ ン プ				H17.3.17	B-3(ラビット) 1,400	635						石油交付金事業
羽島	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	さ ち か ぜ 号	鹿 児 島 88 す 2885	H4.3.17	A-2 日 機 2,300	4,210	10	4,140	525	189	250	ディーゼル車
	小 型 動 力 ポ ン プ 積 載 車	三 菱	積 載 車	鹿 児 島 800 さ 2254	H12.10.25		1,990	9	2,735	499	169	242	ガソリン車 石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ				H12.10.25	B-3 ト ー ハ ッ 1,420	617						石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ 積 載 車	ニ ッ サ ン	あ こ う 号	鹿 児 島 800 す 745	H20.2.20		1,990	9	2,975	497	178	232	ガソリン車 石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ				H20.2.20	B-3 ト ー ハ ッ 1,130	526						石油交付金事業
荒川	消 防 ポ ン プ 自 動 車	ニ ッ サ ン	荒 星 号	鹿 児 島 88 す 1838	H2.10.26	A-2 日 機 2,310	4,160	7	3,385	538	181	220	ガソリン車
	小 型 動 力 ポ ン プ				H13.12.18	B-3(シハウラ) 1,440	618						石油交付金事業
旭	消 防 ポ ン プ 自 動 車	ト ヨ タ	こ が ね 号	鹿 児 島 800 す 2272	H22.3.4	A-2 日 機	4,000	10	4,500	573	188	242	ディーゼル車 石油交付金事業
	小 型 動 力 ポ ン プ				H13.12.18	B-3(シハウラ) 1,440	618						石油交付金事業
生福	消 防 ポ ン プ 自 動 車	三 菱	生 龍 号	鹿 児 島 88 す 7166	H8.11.22	A-2 日 機 2,370	4,560	10	4,220	524	189	241	ディーゼル車
	小 型 動 力 ポ ン プ				H17.3.17	B-3(ラビット) 1,400	635						石油交付金事業
冠岳	消 防 ポ ン プ 自 動 車	ニ ッ サ ン	や ま び こ 号	鹿 児 島 88 す 1090	H元.9.27	A-2 日 機 2,340	4,160	7	3,455	536	181	234	ガソリン車
	小 型 動 力 ポ ン プ				H13.12.18	B-3(シハウラ) 1,440	618						石油交付金事業

イ 市来地域

(H23.4.1現在)

分団名	種 別	車 種	車 名	車両番号	登録年月日	ポンプ性能 (ℓ/分)	排気量 (cc)	定員 (人)	総重量 (kg)	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	備 考
湊	消防ポンプ自動車	いすゞ	飛 竜	鹿児島88 す 8413	H 9.11.28	A-2 森田	4,570	7	3,945	549	190	247	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				H17.3.3	B-3(ト-ハツ) 1420	617						石油交付金事業
川南	消防ポンプ自動車	日 野	蒼 竜	鹿児島800 す 779	H20.2.28	A-2 GMいちほら	4,000	10	4,560	572	188	256	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				H15.10.10	B-3(ト-ハツ) 1,440	617						石油交付金事業
川北	消防ポンプ自動車	いすゞ	海 竜	鹿児島88 す 8414	H 9.11.28	A-2 森田	4,570	7	3,945	549	190	247	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				H17.3.3	B-3(ト-ハツ) 1420	617						石油交付金事業
川上	消防ポンプ自動車	日 野	昇 竜	鹿児島800 す 1382	H21.1.16	A-2 吉谷	4,000	10	4,730	588	188	252	ディーゼル車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ				H15.10.10	B-3(ト-ハツ) 1,440	617						石油交付金事業
市来支所	連絡車	トヨタ		鹿児島88 に 2766	H 7.12.21		1,990	5	1,755	464	169	169	ガソリン車 石油交付金事業
	小型動力ポンプ 積 載 車	トヨタ	やまびこ	鹿児島88 す 4133	H 5.10.5		2,440	8	2,880	474	169	244	ディーゼル車
	小型動力ポンプ				H10.12.14	B-3(ラビット) 1,440	635						

## (3) 署・各分団ポンプ及びホースの保有状況

(H23. 4. 1現在)

区分 署・団	ポンプ台数		ホース本数			
	ポンプ車	小型ポンプ	40mm	50mm	65mm	小計
消防署	3		24	96	86	206
分遣所	1	1	6	34	50	90
団本部					13	13
中央	1	1	2	16	63	81
本浦	1	1	2	24	53	79
照島	1		2	26	62	90
照島 (別府班)		1				
羽島	1	1	7	17	64	88
羽島 (土川班)		1				
荒川	1	1	2	16	58	76
旭	1	1	2	26	62	90
生福	1	1	2	23	42	67
冠岳	1	1	2	17	43	62
湊	1	1	0	0	64	64
川南	1	1	0	0	63	63
川北	1	1	0	0	50	50
川上	1	1	0	0	57	57
市来支所		1	0	0	33	33
合計	16	15	51	295	863	1209

## (4) 消防資機材の保有状況

(H23.4.1 現在)

種別	左側								種別	右側								
	署 タンク 車	いな ずま 号	銀 河 号	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	資 材 庫 他	い ち き 分 遣 所		合 計	署 タンク 車	いな ずま 号	銀 河 号	は し ご 車	化 学 車	救 助 工 作 車	資 材 庫 他	い ち き 分 遣 所
かぎ付はしご	1					1	3	1	6	ハンマードリル					1			1
三連はしご(二連)	1	(1)	(1)			1	(1)	1	3(3)	送排風機					1			1
金属製折畳みはしご		1						1	2	ジェットシューター	3						5	8
空気式救助マット								2	2	造林がま	3	5	4		1		2	15
救命索発射銃						1	1		2	ストライカー					1			1
サバイバースリング						1	1		2	帯電衣(上・下)				2				2
救助用縛帯				2		1	1	1	5	帯電長靴				2			2	4
平担架								4	4	帯電ヘルメット				2				2
ポートパワー								2	2	車載固定型発電機					1			1
可搬式ウインチ						1	2	1	4	車載伸縮式照明装置	1				1			2
エンジンカッター	1					1		2	4	車載固定型ウインチ					1			1
ガス溶断器						1			1	発電機	1			1	1	4	2	10
チェーンソー						1	10	2	13	投光器	1			2	1	1	2	9
鉄線カッター	2		1	1		1		1	6	掛矢	2	2	1		1	3	1	10
万能斧(ベンケイ)						2	2	1	5	斧		1		1	1		6	10
ハンマー				1	1	1	1	1	5	分岐金具(65×65)	2	1	1	1	1			8
可燃性ガス・酸素測定器						2		1	3	分岐金具(65×50)	1							1
空気呼吸器	5		3	4	3	4	8	7	34	分岐金具(65×40)	1		1					2
帯電手袋				2		2	3	1	8	分岐金具(50×40)	1							1
安全帯				3		3	7	2	15	放水銃								1
耐熱服					4				4	プロジェクトガン(40m/m用)	2		3					6
潜水資器材一式		6							6	ロータリーノズル						1	1	2
救命胴衣		7				3	10	3	23	ビックアップノズル(2000型)				1		2	2	5
救命浮環		5					3	2	10	エアフォームノズル(4000型)				4				4
バスケット担架	1					2		1	4	泡放水銃(8000型)				2				2
携帯拡声器	3		1	1		1	7	2	15	ラインプロポーションナー				1		1	1	3
マット型空気ジャッキ一式						1			1	ノズル付高圧ホース(30m)				2				2
大型油圧スプレッダー						1			2	東消式簡易発泡器				1		1	1	3
大型油圧切断機						1			2	ウォーターチャージャー	1							1
鉄筋カッター(ロードレス)						1			1	オイルフェンス(A型)140m							1	1
空気鋸						1			2	水中無線機		1						1
大型油圧器具 (プランジャーラム)						1			1	防毒マスク						6		6

## (5) 消火薬剤等の保有状況

(H23. 4. 1 現在)

合成界面活性剤（プロフォーム）	800 ℓ	
たんぱく泡（エアフォーム3%・6%）	2,760 ℓ	
油 吸 着	吸 着 マ ッ ト	492 枚
吸 収 材 等	吸 着（収）材	50.5 kg
流 出 油 処 理 剤	108 ℓ	
オイルフェンス（S0-200E）	140 m	

## (6) 原子力防災資機材の保有状況

(H23. 4. 1 現在)

空気呼吸器（予備ボンベ付）	26 基	
ポケット線量計	アラーム機能なし	20 個
	アラーム機能あり	55 個
防 護 マ ス ク	325 個（フィルター612個）	
防 護 服	アノラック型	350 着
	タイベック型	350 着
防 護 靴	オーバーシューズ	330 足
防 護 手 袋	ゴ ム 製	260 双
	綿 製	260 双
携 帯 用 拡 声 器	5 基	
消 防 用 無 線 機	車 載 型 10W	9 基
	携 帯 型 5W	6 基
ト ラ ン シ ー バ ー	4 基	
サーベイメータ（ポケット型含む。）	6 基	
夜 間 災 害 用 発 電 機 一 式	5 組	
資 機 材 運 搬 用 車 両	1 台	
パ ソ コ ン	2 台	
レ ー ザ ー プ リ ン タ ー	1 台	
脚 付 き 両 開 き ボ ー ド	1 台	
マ ル チ プ ロ ジ ェ ク タ	1 台	
エ ア ー テ ン ト	1 式	
化 学 防 護 服	4 着	
衛 星 携 帯 電 話	1 基	
簡 易 放 送 用 設 備	1 式	
空気呼吸器拡声器（充電器含む。）	6 基	
デ ジ タ ル カ メ ラ	3 基	
ワ イ ヤ レ ス メ ガ ホ ン	1 式	
エ ア ー 膨 張 式 投 光 装 置	1 式	
空 気 ボ ン ベ 用 空 気 圧 縮 機	1 基	

(7) 消防水利の状況 (消防水利の基準に適合しないものも含む。)

ア 串木野地域

(H23. 4. 1現在)

水利の別		地区別 配管及び水量	中	本	照	羽	荒	旭	生	冠	合
			央	浦	島	島	川		福	岳	計
消 火 栓 (公 設)	350mm		1		1						2
	300mm		7		2						9
	250mm		7	1	2						10
	200mm		8	9	4	1				4	26
	150mm		39	18	20	8	4		5	3	97
	100mm		55	9	21	11	3	4	15	2	120
	75mm		25	7	13	18	5	11	5	3	87
小 計 A			142	44	63	38	12	15	25	12	351
防 火 水 槽 (公 設)	40m <sup>3</sup> 以上		16	4	16	7	6	3	9	5	66
	30m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満		43	6	18	17	6	10	14	6	120
	20m <sup>3</sup> 以上 30m <sup>3</sup> 未満		2	1	3	1		2		3	12
	20m <sup>3</sup> 未満		5	1		2					8
	(私 設)	40m <sup>3</sup> 以上		1	1						2
	小 計 B			67	12	38	27	12	15	23	14
プール	40 m <sup>3</sup> 以上		3		3	2	1	1	1	1	12
河 川	常時取水可能		7	1	3	2	3	1	4	2	23
海 水	常時取水可能			4	1	1					6
小 計 C			10	5	7	5	4	2	5	3	41
総 計 A+B+C			219	61	108	70	28	32	53	29	600

イ 市来地域

(H23.4.1現在)

水利の別		地区別 配管及び水量	湊	川 南	川 北	川 上	合 計
消 火 栓 ( 公 設 )	200mm	14	0	0	0	14	
	150mm	6	7	5	0	18	
	125mm	1	0	0	0	1	
	100mm	21	13	19	10	63	
	75mm	19	15	10	15	59	
	65mm以下	3	5	14	8	30	
小 計 A		64	40	48	33	185	
防 火 水 槽 ( 公 設 )	40m <sup>3</sup> 以上	22	15	19	21	77	
	30m <sup>3</sup> 以上 40m <sup>3</sup> 未満	1	1	1	0	3	
	20m <sup>3</sup> 以上 30m <sup>3</sup> 未満	0	0	5	0	5	
	20m <sup>3</sup> 未満						
	( 私 設 )	40m <sup>3</sup> 以上			2	2	
小 計 B		23	16	27	21	87	
プー ル	40 m <sup>3</sup> 以 上	1	2		1	4	
河 川	常時取水可能	5		3	2	10	
海 水	常時取水可能						
小 計 C		6	2	3	3	14	
総 計 A+B+C		93	58	78	57	286	

(8) 消防無線の状況

ア 消防本部

(H23. 4. 1現在)

局別	数	形式	電力	周波数	呼称	設置場所	購入年月	経過年数	会社名	再免年月	備考
基地局	2		10W	① 市波 149.15MHz	消串	消防本部	H6. 7	14年	日本無線	H23. 5	
				② 県波 148.21MHz							
固定局	2		1W	① 市波	消小ヶ倉	羽島小ヶ倉	H8. 1	13年	日本無線	H23. 5	
				○ 中継波 365.15MHz	消串本部	消防本部	H8. 1	13年	日本無線	H24. 11	
移動局(車載)	15	F3	10W	① 市波	消串6	化学車	H6. 12	14年	日本無線	H23. 5	
				② 県波	消串9	積載車	H元. 2	20年	日本無線	H23. 5	
				① 市波	消串1	署タンク車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	貸与品 (県)原子 力防災資 器材
					消串2	いなづま号	H11. 2	10年	日本無線	H23. 5	
				② 県波	消串3	銀河号	H11. 11	9年	日本無線	H23. 5	
				消串4	さのさ号	H8. 3	13年	日本無線	H23. 5		
				③ 全国波1 150.73MHz	消串5	はしご車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
				④ 防災波 158.35MHz	消串7	救助工作車	H11. 11	9年	日本無線	H23. 5	貸与品 (県)原子 力防災資 器材
					消串8	防災活動車	H11. 11	9年	日本無線	H23. 5	
					救串2	救急2号車	H8. 3	13年	日本無線	H23. 5	
				①市波 ②県波	消串10	運搬車	H14. 3	7年	NEC	H23. 5	
				③全国波1、2、3 ④防災波	救串1	救急1号車	H12. 11	8年	日本無線	H23. 5	
				①市波 ②県波	消い1	いちき タンク車	H6. 7	14年	ゼネラル通信 システム	H27. 5	
				③全国波1、2、3	消い2	いちき ミニ車	H12. 10	8年	ゼネラル通信 システム	H27. 5	
					救い1	いちき 救急車	H18. 12	2年	日本無線	H23. 5	
移動局(携帯)	22	F3	5W	① 市波 ② 県波	消串12	いなづま号	H8. 10	12年	日本無線	H23. 5	
				① 市波	消串11	あかつき号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串13	銀河号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串14	さのさ号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串15	はしご車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
				② 県波	消串16	化学車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串17	救助工作車	H18. 2	3年	スタンダード	H23. 5	貸与品 (県)原子 力防災資 器材
					消串18	通信室	H18. 2	3年	スタンダード	H23. 5	
				消串19	通信室	H18. 2	3年	スタンダード	H23. 5		
				③ 全国波1	消串20	通信室	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串21	通信室	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串22	通信室	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串23	救急1号車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串24	救急2号車	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串25	通信室	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
					消串26	通信室	H18. 2	3年	スタンダード	H23. 5	貸与品 (県)原子 力防災資 器材
					消串27	通信室	H17. 1	4年	アイコム	H23. 5	
④ 防災波	消串28	通信室	H17. 1	4年	アイコム	H23. 5					
	消串29	分遣所	H17. 12	3年	アイコム	H23. 5					
	消串30	分遣所	H17. 12	3年	アイコム	H23. 5					
	消串31	分遣所	H17. 12	3年	アイコム	H23. 5					
	消串32	分遣所	H17. 12	3年	アイコム	H23. 5					

イ 消防団

(H23. 4. 1現在)

局別	数	形式	電力	周波数	呼称	設置場所	購入年月	経過年数	会社名	再免年月	備考			
移動局 (車載)	17	F3	10W	①市波 ②県波	消中3	中央分団 すいせい号	H9. 3	12年	日本無線	H23. 5				
					消照3	照島分団 くるせ号	H10. 2	11年	日本無線	H23. 5				
					消羽1	羽島分団 さちかぜ号	H10. 2	11年	日本無線	H23. 5				
					消土1	羽島分団 あこう号	H8. 1	13年	日本無線	H23. 5				
				①県波 ②市波 ③全国波 (1・2・3波)	消中1	中央分団 たつまき号	H18. 3	3年	ゼネラル通信 システム	H23. 5				
					消照1	照島分団 照月号	H18. 3	3年	ゼネラル通信 システム	H23. 5				
				①市波 ②県波 ③全国波 (1・2・3) ④防災波	消団1	団本部車	H14. 3	7年	NEC	H23. 5	貸与品(県) 原子力防災 資器材			
					消旭1	旭分団 こがね号	H14. 3	7年	NEC	H23. 5				
					消湊1	湊分団 飛竜	H17. 10	3年	日本無線	H23. 5				
					消川南1	川南分団 蒼竜	H17. 10	3年	日本無線	H23. 5				
					消川北1	川北分団 海竜	H17. 10	3年	日本無線	H23. 5				
					消川上1	川上分団 昇竜	H17. 10	3年	日本無線	H23. 5				
					消市来支所1	市来支所分団 やまびこ	H17. 10	3年	日本無線	H23. 5				
				①市波 ②県波 ③全国波 ④防災波	消本1	本浦分団 あさかぜ号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5				
					消荒1	荒川分団 荒星号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5				
					消生1	生福分団 生龍号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5				
					消冠1	冠岳分団 やまびこ号	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5				
				移動局 (携帯)	18	5W	①市波 ②県波 ③全国波 ④防災波	消団2	団本部	H16. 6	4年	アイコム	H23. 5	
								消団3	団本部	H16. 6	4年	アイコム	H23. 5	
								消羽2	羽島分団	H19. 2	2年	アイコム	H23. 5	
消荒2	荒川分団	H19. 2	2年					アイコム	H23. 5					
消旭2	旭分団	H19. 2	2年					アイコム	H23. 5					
消生2	生福分団	H19. 2	2年					アイコム	H23. 5					
消冠2	冠岳分団	H19. 2	2年					アイコム	H23. 5					
①市波 ②県波 ③全国波 (1・2・3) ④防災波	消団4	団本部	H14. 6				6年	モトローラ	H23. 5					
	消団5	団本部	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消団6	団本部	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消中2	中央分団	H14. 6				6年	モトローラ	H23. 5					
	消本2	本浦分団	H14. 6				6年	モトローラ	H23. 5					
	消照2	照島分団	H14. 6				6年	モトローラ	H23. 5					
	消湊2	湊分団	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消川南2	川南分団	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消川北2	川北分団	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消川上2	川上分団	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					
	消市来支所2	市来支所分団	H17. 10				3年	日本無線	H23. 5					

## VI 気 象

年平均気温	.....	18.4°C
-------	-------	--------

年間降水量	.....	2,673mm
-------	-------	---------

年平均風速	.....	3.0m/s
-------	-------	--------

# 1 気象観測の状況

(H22年中) 【観測所：消防署】

月 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	
快晴日数	0	0	3	3	2	2	0	0	0	1	0	0	11	
晴天日数	14	16	11	8	17	8	16	23	21	13	20	8	175	
曇天日数	12	8	11	13	10	8	11	8	6	11	9	17	124	
雨天日数	4	4	6	6	2	12	4	0	3	5	1	5	52	
雪日数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	
降水日数	15	13	16	15	9	16	17	10	14	10	6	17	158	
降水量	111.0	178.0	280.5	190.5	291.0	854.5	309.0	47.5	82.5	144.5	42.0	141.5	2673	
最大日降水量	30.5	60.0	52.0	32.5	126.0	246.5	107.5	23.0	23.0	76.5	30.0	42.0	最大/日 247	
風速	平均	3.2	3.0	3.3	3.3	3.0	2.7	3.0	3.4	2.8	2.4	2.6	3.7	年平均 3
	瞬間最大	20.9	23.4	26.9	22.4	18.0	24.9	18.8	19.2	16.7	16.3	19.1	26.9	最大/年 27
気温	平均	8.2	11.5	12.9	15.6	20.2	23.3	27.0	29.1	26.5	21.0	14.8	10.7	年平均 18
	最高	20.2	23.0	24.0	26.0	28.1	29.2	34.0	36.3	35.0	31.2	23.4	22.1	最高/年 36
	最低	0.2	2.2	0.0	6.7	11.1	16.9	21.9	24.7	18.8	12.3	5.2	0.0	最低/年 0
相対湿度	平均	66.0	68.4	69.7	69.0	71.7	81.9	85.2	78.7	78.3	72.1	66.3	69.5	年平均 73
	最高	96.3	96.3	97.3	98.4	98.9	99.7	99.9	97.8	96.8	99.4	95.9	98.5	最高/年 100
	最低	28.3	27.2	15.1	26.3	29.8	26.7	50.6	49.1	1.8	29.7	20.7	30.9	最低/年 2
実効湿度	平均	65.7	68.6	69.9	69.3	71.3	81.3	85.4	79.0	78.2	72.2	66.3	69.2	年平均 73
	最高	81.7	91.3	91.8	89.6	93.3	97.0	98.1	89.0	87.6	91.1	86.0	89.5	最高/年 98
	最低	53.3	44.9	40.8	48.6	50.4	57.9	67.2	66.4	57.5	53.8	51.3	55.2	最低/年 41
現地気圧	平均	1020.2	1016.7	1016.6	1015.1	1009.7	1008.3	1009.0	1010.8	1011.0	1013.1	1017.7	1013.8	年平均 1014
	最高	1030.1	1025.7	1029.1	1025.9	1019.4	1016.8	1016.8	1017.6	1016.3	1021.0	1024.4	1023.6	最高/年 1030
	最低	1010.1	1003.3	1004.1	1002.0	996.3	999.9	997.9	1003.1	1004.1	1005.1	1006.2	1005.1	最低/年 996

## 備考

天候の記録は、午前9時現在の観測である。  
降水日数は、降水量が0.5mm以上あった日数である。

## 2 風向の状況

(H22年中)

月 風向	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
北北東 (NNE)	16.1	21.4	12.9	6.7	6.5	3.3	3.2	0.0	13.3	29.0	26.7	0.0	11.6
北 東 (NE)	25.8	10.7	25.8	26.7	35.5	46.7	25.8	32.3	36.7	35.5	26.7	3.2	27.6
東北東 (ENE)	0.0	0.0	9.7	10.0	9.7	10.0	12.9	25.8	16.7	3.2	0.0	6.5	8.7
東 (E)	0.0	10.7	9.7	3.3	6.5	3.3	3.2	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
東南東 (ESE)	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	0.8
南 東 (SE)	0.0	3.6	0.0	3.3	0.0	6.7	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
南南東 (SSE)	0.0	0.0	3.2	0.0	6.5	6.7	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
南 (S)	0.0	3.6	3.2	3.3	0.0	6.7	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	3.2	2.5
南南西 (SSW)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	9.7	12.9	3.3	0.0	0.0	0.0	3.0
南 西 (SW)	0.0	0.0	0.0	3.3	3.2	3.3	9.7	3.2	6.7	0.0	0.0	0.0	2.5
西南西 (WSW)	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	3.2	3.2	6.7	0.0	0.0	0.0	1.4
西 (W)	0.0	3.6	3.2	3.3	25.8	3.3	6.5	3.2	6.7	0.0	0.0	19.4	6.3
西北西 (WNW)	3.2	0.0	16.1	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	3.3	19.4	4.3
北 西 (NW)	16.1	0.0	3.2	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	10.0	19.4	5.4
北北西 (NNW)	22.6	28.6	9.7	13.3	3.2	0.0	0.0	0.0	3.3	12.9	13.3	22.6	10.8
北 (N)	16.1	14.3	3.2	6.7	3.2	0.0	0.0	0.0	3.3	12.9	20.0	3.2	6.9

※ 風向頻度 (%) を示す。

## 3 各地の降水量 (防災テレメーターによる。)

(H22年中)

観測所 月	冠 岳	生 福	旭	荒 川	羽島支所	土 川	市来庁舎	消 防 署
1	80.0	124.0	136.0	118.0	107.0	109.0	107.0	111.0
2	153.0	188.0	192.0	169.0	162.0	155.0	177.0	178.0
3	247.0	296.0	319.0	271.0	252.0	219.0	262.0	280.5
4	152.0	214.0	236.0	212.0	197.0	180.0	187.5	190.5
5	164.0	324.0	397.0	340.0	311.0	315.0	270.0	291.0
6	591.0	890.0	943.0	846.0	787.0	700.0	782.5	854.5
7	243.0	362.0	407.0	360.0	275.0	278.0	335.5	309.0
8	59.0	81.0	66.0	104.0	81.0	90.0	49.0	47.5
9	77.0	94.0	142.0	100.0	77.0	93.0	91.0	82.5
10	125.0	135.0	212.0	201.0	271.0	242.0	126.0	144.5
11	40.0	44.0	49.0	47.0	43.0	39.0	44.0	42.0
12	137.0	169.0	191.0	176.0	162.0	180.0	114.5	141.5
合計	2,068.0	2,921.0	3,290.0	2,944.0	2,725.0	2,600.0	2,546.0	2,672.5

# 東日本大震災

2011年（平成23年）3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東約130km付近（三陸沖）の深さ約24kmを震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、震源域は東北地方から関東地方にかけての太平洋沖の幅約200km、長さ約500kmの広範囲に亘った。この地震によって大規模な津波が発生し、最大で海岸から6km内陸まで浸水、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.5mにもものぼる大津波が発生し、震源地に近い東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

また、地震と津波による被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、全電源を喪失して原子炉を冷却できなくなり、大量の放射性物質の放出を伴う重大な原子力事故に発展した。

## 緊急消防援助隊（鹿児島県隊）

東日本大震災被災地の消火、救急・救助等支援のため、3月14日総務省消防庁から緊急消防援助隊鹿児島県隊への出動指示が下され、当消防署からも4名の隊員を鹿児島県隊（36隊108名）の一員として現地に派遣しました。

鹿児島県隊は、宮城県石巻市での活動を命ぜられ、最低気温がマイナス4℃という極寒の中、電気、水道などライフラインが途絶した被災地で、初日と2日目は、石巻市中心部の人命救助活動に当たりました。3日目（活動最終日）は、中心部から20km程離れた全校児童の3分の2が津波に襲われた大川小学校周辺の行方不明者捜索を命ぜられましたが、津波により北上川の堤防が数百mに亘って決壊していたため、現地まで行くことができず、その手前の大川中学校周辺の水没した現場の捜索・救助活動を行い、2名の犠牲者を収容し、現地での3日間の活動を終了しました。

現地は地震と津波で建物の倒壊や道路の地割れなどが激しく、テレビの映像以上に悲惨な状況で地震・津波の脅威を改めて感じました。また、繰り返される余震や氷点下になる気候など被災者の不安や苦労は計り知れないものでしたが、地域住民からの感謝の声は、活動の大きな活力となりました。

被災地の一日も早い復旧と復興、そして未だ行方不明の方々の発見を祈るとともに、いちき串木野市民の安心・安全を守るため、今回の派遣で得た経験を活かし、今後も署員一丸となって防災活動に取り組んでまいります。



宮城県大崎市に到着



涌谷スタジアムに拠点を設置



石巻市街地搜索



石巻市街地の状況



津波被害により湖となった地区



津波被害を受けた中学校



行方不明者搜索



解団式の様子

**火事と救急は  
119番**

**いちき串木野市消防本部**

鹿児島県いちき串木野市昭和通 133-1

〒896-8601 電話 0996 (32) 0119

FAX 0996 (32) 4396